

世界文化遺產

富士山

包括的保存管理計畫

(分冊-2)

景觀法

屋外廣告物法

都市計画法

海岸法

自主條例

土地利用事業指導要綱

基準等概要

富士山包括的保存管理計画（分冊-2）

目 次

第1 緩衝地帯における基準等

1. 景観法(富士吉田市景観計画)に定める景観形成基準	1
2. 景観法(身延町景観計画)に定める景観形成基準	6
3. 景観法(西柱町景観計画)に定める景観形成基準	8
4. 景観法(忍野村景観計画)に定める景観形成基準	10
5. 景観法(山中湖村景観計画)に定める景観形成基準	12
6. 景観法(鳴沢村景観計画)に定める景観形成基準	14
7. 景観法(富士河口湖町景観計画)に定める景観形成基準	18
8. 景観法(富士宮市景観計画)に定める景観形成基準	27
9. 景観法(富士市景観計画)に定める景観形成基準	37
10. 景観法(御殿場市景観計画)に定める景観形成基準	38
11. 景観法(裾野市景観計画)に定める景観形成基準	40
12. 景観法(小山町景観計画)に定める景観形成基準	42
13. 景観法(静岡市景観計画)に定める景観形成基準	45
14. 屋外広告物法(山梨県屋外広告物条例)に定める許可基準	49
15. 屋外広告物法(静岡県屋外広告物条例)に定める許可基準	51
16. 屋外広告物法(静岡市屋外広告物条例)に定める許可基準	52
17. 屋外広告物法(富士宮市屋外広告物条例)に定める許可基準	53
18. 屋外広告物法(富士市屋外広告物条例)に定める許可基準	54
19. 屋外広告物法(御殿場市総合景観条例)に定める許可基準	55
20. 屋外広告物法(裾野市屋外広告物条例)に定める許可基準	56
21. 忍野村風致地区条例(都市計画法に基づく)に定める許可基準	57
22. 都市計画法(静岡市)に定める許可基準	60
23. 都市計画法(富士宮市)に定める高度地区	62

24. 海岸法に定める許可基準	63
25. 自主条例(富士吉田市富士山世界遺産条例)に定める基準	64
26. 自主条例(富士宮市富士山景観等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に 関する条例)に定める基準	65
27. 土地利用事業指導要綱(御殿場市)に定める基準	66
28. 土地利用事業指導要綱(裾野市)に定める基準	67
29. 土地利用事業指導要綱(小山町)に定める基準	68

第2 保安全管理区域における基準等

1. 景観法(富士吉田市景観計画)に定める景観形成基準	69
2. 景観法(忍野村景観計画)に定める景観形成基準	77
3. 景観法(御殿場市景観計画)に定める景観形成基準	79
4. 景観法(裾野市景観計画)に定める景観形成基準	81
5. 景観法(小山町景観計画)に定める景観形成基準	83
6. 土地利用事業指導要綱(御殿場市)に定める基準	86
7. 土地利用事業指導要綱(裾野市)に定める基準	87
8. 土地利用事業指導要綱(小山町)に定める基準	88

第1 緩衝地帯における基準等

1. 景観法(富士吉田市景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名	
		市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域
移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更 建築物の新築・増築、改築若しくは	配置	(1) 富士山や周辺の山々の眺望を阻害しないよう、建築物はできるだけ目立たないよう配置に留意する。 (2) 敷地の許す範囲内で、道路・隣地境界線からできるだけ後退し、道路に面した敷地の境界部の緑化を図り、緑豊かな「道通り」景観の形成に努める。 (3) 周辺の街並みとの連続性や調和に配慮した配置とする。 (4) 既存の地形や敷地の樹木等の保全・活用に努め、敷地内の緑化に配慮し、調和のとれた豊かな街並み景観の形成に努める。 (5) 敷地の角地は、シンボルツリーの設置やオープンスペースの確保など、ゆとりある「まちかど」景観の形成に努めること。	(1) 富士山や周辺の山々の眺望を阻害しないよう、建築物はできるだけ目立たないよう配置に留意する。 (2) 敷地の許す範囲内で、道路・隣地境界線からできるだけ後退し、道路に面した敷地の境界部の緑化を図り、緑豊かな「道通り」景観の形成に努める。 (3) 周辺の街並みとの連続性や調和に配慮した配置とする。 (4) 既存の地形や敷地の樹木等の保全・活用に努め、敷地内の緑化に配慮し、調和のとれた豊かな街並み景観の形成に努める。
	外観 規模	(1) 周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した規模、デザインに努める。 (2) 高さは極力抑え、富士山や山々の眺望、周辺の自然環境、田園景観との調和に努める。なお、国道139号金鳥居交差点から上宿交差点沿線の道路界から30mの範囲及び国道138号上宿交差点から浅間神社東交差点沿線の道路界から50mの範囲にあつては、原則13m以下 ¹ とする。また、市道上吉田西裏通り線上宿西交差点から国道137号までの東側沿線の道路界から上記範囲までと市道上吉田東裏通り線及び市道上吉田東裏通り2号線の市道赤坂線交差点から国道138号までの西側沿線の道路界から上記範囲までは、原則18m以下 ¹ とする。 (3) 周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模とし、建築物等と敷地のバランスに配慮する。	(1) 国立公園区域内については、建築物等の高さについては富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針に定めるところによるものとする。 (2) 周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した規模、デザインに努める。 (3) 高さは極力抑え、富士山や山々の眺望、周辺の自然環境、田園景観との調和に努める。 (4) 周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模とし、建築物等と敷地のバランスに配慮する。

¹ 高さの算定は、建築基準法の例による。

項目		制度名/対象区域名																																																																		
		市街地・田園集落景観形成地域				里地里山・富士山麓景観形成地域																																																														
形態、意匠		<p>(1) 周辺の建築物等との連続性に配慮するとともに、自然と調和した形態及び意匠となるよう工夫する。</p> <p>(2) 景観形成重点地区及びその候補地は、周辺の歴史的景観等に配慮し、これらと調和するような形態・意匠、色彩及び材料を工夫する。</p> <p>(3) 屋根の形状は、周囲の景観との連続性に配慮し、可能な限り勾配屋根とするよう努める。</p> <p>(4) 外壁又は屋上に設ける設備等は、露出しないようにし、できるだけ突出感や雑然とした感じを与えない意匠とする。</p> <p>(5) 屋外階段、ベランダなどは、建物本体と調和するよう配慮する。</p>																																																																		
		<p>(1) 建築物の基調色¹並びに建築物の屋根に使用する色彩は別表のとおりとする。ただし、木材、レンガ、土壁、漆喰、ガラスなど表面に着色を施していない素材色は、この限りでない。</p> <p>(2) 使用する色数は出来るだけ少なくなるよう努める。</p>																																																																		
		<p>別表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">色相</th> <th colspan="4">市街地・田園集落景観形成地域</th> <th colspan="4">里地里山・富士山麓景観形成地域</th> </tr> <tr> <th colspan="2">外壁・工作物</th> <th colspan="2">屋根</th> <th colspan="2">外壁・工作物</th> <th colspan="2">屋根</th> </tr> <tr> <th>明度</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10R<色相≤5Y</td> <td></td> <td>6以下</td> <td></td> <td>6以下</td> <td></td> <td>4以下</td> <td></td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>10RP<色相≤10R 又は 5Y<色相≤10Y</td> <td></td> <td>3以下</td> <td>7以下</td> <td>3以下</td> <td>3以上 8以下</td> <td>2以下</td> <td>7以下</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>10Y<色相≤10PR</td> <td></td> <td>2以下</td> <td></td> <td>2以下</td> <td></td> <td>1以下</td> <td></td> <td>1以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色(N)</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>								色相	市街地・田園集落景観形成地域				里地里山・富士山麓景観形成地域				外壁・工作物		屋根		外壁・工作物		屋根		明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	10R<色相≤5Y		6以下		6以下		4以下		4以下	10RP<色相≤10R 又は 5Y<色相≤10Y		3以下	7以下	3以下	3以上 8以下	2以下	7以下	2以下	10Y<色相≤10PR		2以下		2以下		1以下		1以下	無彩色(N)		-		-		-
色相	市街地・田園集落景観形成地域				里地里山・富士山麓景観形成地域																																																															
	外壁・工作物		屋根		外壁・工作物		屋根																																																													
	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度																																																												
10R<色相≤5Y		6以下		6以下		4以下		4以下																																																												
10RP<色相≤10R 又は 5Y<色相≤10Y		3以下	7以下	3以下	3以上 8以下	2以下	7以下	2以下																																																												
10Y<色相≤10PR		2以下		2以下		1以下		1以下																																																												
無彩色(N)		-		-		-		-																																																												
材料		<p>(1) 外観及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料をできるだけ避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるものとする。</p> <p>(2) 鏡面等の反射光の強い素材は極力用いないように努める。</p>				<p>(1) 外観及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料をできるだけ避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるものとする。</p> <p>(2) 周辺景観と調和し、耐久性、耐候性に優れた材料を使用する。</p> <p>(3) 鏡面等の反射光の強い素材は極力用いないように努める。</p>																																																														

¹ 基調色：基調色外観の面積のうち最も大きな面積の色彩をいう。全体の3分の2程度を目安とする。

項目		制度名/対象区域名	
		市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域
	屋外照明	<p>(1) 商業看板等の照明、ネオンサインなどは、過度な光量、けばけばしい色合いとならないよう配慮する。</p> <p>(2) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に拡散しないよう配慮する。</p>	<p>(1) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に拡散しないよう配慮する。</p> <p>(2) 光源で動きのあるものは、原則として避ける。</p>
	緑化	<p>(1) 敷地内は極力緑化に努めるとともに、道路に面する部分(前庭)には特に配慮する。</p> <p>(2) 既存の樹木は、可能な限り保存若しくは移植し、修景に活かす。</p> <p>(3) 使用する樹種は、周辺の樹林や緑地等、又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするよう努める。</p>	
	その他	<p>(1) 神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボル等の景観資源に近接する場合は、これらに違和感を与えることのないように位置、形態、意匠、色彩及び材料について配慮する。</p> <p>(2) 駐車場、駐輪場、ゴミ置場、自動販売機、その他の設置物等を配置する場合は、規模、デザインを周囲の景観と調和させるよう配慮すること。</p>	
移転、外観を変更することとなる修繕もしくは模様替え又は色彩の変更 <small>工作物の新築、増築、改築若しくは</small>	垣、柵、塀の類	<p>(1) できるだけ低くし、形状、意匠、色彩は、周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した配置や規模、デザインに努めること。</p> <p>(2) 擁壁類は、圧迫感を軽減させるデザインと自然素材の使用などで仕上げを行うとともに、緑化等で修景を行うよう努めること。</p> <p>(3) 露出する場合は、周囲を遮へい効果のある植栽などで囲むなど周囲の景観と調和させるよう配慮すること。</p>	
	電線類、電柱、鉄塔、アンテナの類	<p>(1) 位置は、山並み景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。なお、設置場所が建築物の規模の項に記載する場所に該当する場合は、原則18m以下※1とする。</p> <p>(2) 電線・アンテナの類はできるだけ共架に努め、電柱・鉄塔類の数をできるだけ少なくする。</p> <p>(3) 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(4) 色彩については、富士山の眺望や背景となる山並み景観等の周辺の景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(5) 鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽などにより遮蔽し、目立たないようにする。</p>	<p>(1) 位置は、山並み景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。</p> <p>(2) 電線・アンテナの類はできる限り共架に努め、電柱・鉄塔類の数をできるだけ少なくする。</p> <p>(3) 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(4) 色彩については、富士山の眺望や背景となる山並み景観等の周辺の景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(5) 鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽などにより遮蔽し、目立たないようにする。</p>

1 アンテナ;PHS用携帯アンテナについては、今後需要の減少に伴って残置が予想されるため、電柱等に設置されたアンテナ設備については、今後段階的に撤去していくことを指導する。

項目	制度名/対象区域名	
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域
煙突、記念塔、金属 彫像の類 遊戯施設、 製造プラント、 処理施設の類 太陽光発電設備	(1) 山岳や高原、樹林、農地、集落や家並みなど周辺や背景となる景観を損なわないことを基本とする。 (2) 位置は、道路及び隣地からできるだけ後退させる。 (3) 高さは、周囲の景観を損なわないように、規模をできるだけ小さくする。なお、設置場所が建築物の規模の項に記載する場所に該当する場合にはあつては、当該規模の項に定める基準以下とする。 (4) 形状、意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。 (5) 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。 (6) 遊戯施設等工作物の照明、ネオンサインなど屋外照明を行う場合は、建築物に準じるものとする。	(1) 山や高原、樹林、農地、集落や家並みなど周辺や背景となる景観を損なわないことを基本とする。 (2) 位置は、道路及び隣地からできるだけ後退させる。 (3) 高さは、周囲の景観を損なわないように、規模をできるだけ小さくする。 (4) 形状、意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。 (5) 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。 (6) 屋外照明を行う場合は、建築物に準じるものとする。
	(1) 富士吉田市太陽光発電施設に関する景観形成基準による。	
	土地の形質の変更 鉱物の掘採又は土 石の類の採取 その他物件の堆積	(1) 土地の形質の変更は必要最小限に抑えるものとする。 (2) 周辺の地形との調和に配慮し、大きな法面などが生じないように努める。 (3) 法面を必要とする場合は、できるだけ緩やかな勾配(1:1.8程度)とし、併せて地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。 (4) 擁壁等の工作物を設置する際には、擁壁前面への植栽や緑化法面との組み合わせ等、無機質な表情を和らげるよう工夫する。 (5) 残地に現存する樹林、樹木、水辺等は極力保全し活用するよう努める。 (6) 形質の変更終了後は、速やかに敷地の緑化に努める。
(1) 掘採等は必要最小限に抑えるものとする。 (2) 掘採等にあたっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地の緑化に努める。 (3) 掘採等終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。		
(1) 位置は、道路等その他公共の場からできるだけ離すとともに、規模を必要最小限に抑えるものとする。 (2) 積み上げにあたっては、できるだけ低くし、周囲の景観を損なわないよう、整然とする。 (3) 敷地の周辺は、植栽などの自然と調和した遮蔽措置を講ずるよう努める。		

項目		制度名/対象区域名	
		市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域
	木竹の伐採	<p>(1) 樹木の保全・育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2) 道路に面する部分の伐採は避け、やむを得ず伐採した場合は代替植栽に努める。</p>	

2. 景観法(身延町景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名
		一般地区
移転、 外観を変更することとなる修繕もしくは模様替又は色彩の変更 建築物・工作物の新築・建設、増築、改築もしくは	形態、意匠	(1)周辺に与える威圧感、圧迫感および突出感の軽減に努める等、周辺の景観との調和に配慮すること。 (2)壁面等の意匠のつりあいに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とすること。 (3)外壁又は屋外に設ける設備は露出しないようにし、大規模建築物等の本体および周辺景観との調和に配慮すること。 (4)屋外階段、ベランダ等大規模建築物等の本体と一体をなすものを設ける場合には、大規模建築物等の本体との調和に配慮すること。
	色彩	(1)けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観との調和に配慮すること。
	素材	(1)周辺の景観との調和に配慮した材料を使用すること。 (2)地域特有の材料や天然の材料をできるだけ活用すること。 (3)耐久性および耐候性に優れた材料の使用に努めること。
	位置	(1)道路境界線および隣地境界線からは、できるだけ後退すること。 (2)周辺および敷地内の建築物等との調和に配慮した配置とすること。 (3)既存の樹木がある場合には、これをできるだけ修景に生かすよう配慮すること。
	高さ	(1)鉄塔の最高高さは30mとする。
	緑化	(1)敷地内においては緑化に努めること。 (2)地域の特性にあった樹木の植栽に努めること。 (3)大規模建築物等が周辺に与える威圧感、圧迫感および突出感を和らげるように樹木の高さおよびその配置に配慮すること。
	その他	(1)優れた景観を有する山岳等の近傍にあっては、これらの稜線を乱さないように位置および高さについて配慮する。 (2)神社、寺院、遺跡等の歴史的資産の近傍にあっては、これらに違和感を与えることのないように位置、形態、意匠、色彩および材料について配慮すること。 (3)優れた景観を有する山岳等又は貴重な歴史的建造物の近傍にあっては、勾配のある屋根を設けるように配慮すること。 (4)都市施設の集積する商業地域において、道路境界線から後退することにより生じた空地は、道路と一体となった開放的な空地とするように努めること。 (5)太陽光発電施設等を地上に設置する場合の基準は別に定める。 (6)太陽光発電施設等を建築物に設置する場合の基準は別に定める。

項目	制度名/対象区域名	
	一般地区	
都市計画法第4条第12項に規定する 開発行為その他政令で定める行為	区画形質の変更	<p>(1)土地の区画形質の変更は、周辺の地形との調和に配慮し、必要最小限とする。</p> <p>(2)法面が生じる場合、一様な大規模なものとならないように、複数段に分け、勾配を緩やかにする等配慮を行う。</p> <p>(3)擁壁が生じる場合、周辺と調和する材料、形態・意匠となるよう配慮する。</p> <p>(4)残地の樹木、河川・水辺等の自然環境を極力保全し、活用するよう配慮する。区画形質の変更後は、周辺との調和に配慮し、敷地の緑化を行う。</p>
	堆積方法	<p>(1)堆積を行う位置は、道路等の公衆の通行し、又は集合する場所に接する敷地境界線からできるだけ離れた位置とすること。</p> <p>(2)積み上げにあたっては、できるだけ低いものとし、整然とした集積又は貯蔵とすること。</p>
再生資源その他の物件の堆積	遮蔽	<p>(1)敷地の周囲の植栽を行う等、道路等の公衆の通行し、又は集合する場所からの遮蔽に配慮すること。</p>

3. 景観法(西桂町景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名
		西桂町全域
建築物	新築、増改築、移転、 外観の模様替え、色彩の変更	(1)個々の建築物等の規模、高さを極力抑え、周辺の景観との調和、富士山等の眺望の確保に努める。 (2)外壁及び屋根の色彩は落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観に調和した色調とする。
工作物新築、増改築、移転、 外観の模様替え、色彩の変更	垣、さく、 塀の類	(1)生け垣や石材、木材などの天然の材料をできるだけ用いるよう努める。 (2)できるだけ低くし、形状、意匠、色彩は、周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。
	電線類、電柱、 鉄塔、アンテナの類	(1)規模を小さくする。 (2)色彩は、設置場所の背景を考慮し、原則として光沢のない焦茶色又は灰色のいずれかにする。
	遊戯施設、製造プラント、 貯蔵施設、処理施設	(1)高さは、周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。 (2)形状、意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。 (3)色彩等は、建築物に準じるものとする。
	太陽光発電施設	西桂町太陽光発電施設に関する景観形成基準による。
開発その他の行為	土地の形状変更 及び土石の採取	(1)周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面などを生じないよう努める。 (2)法面は、できるだけ緩やかな勾配とし、地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。 (3)擁壁は、自然に調和した材料、形態、意匠となるよう修景に工夫する。 (4)残地に現存する樹林、樹木、水辺等は極力保全し、活用するよう努める。 (5)終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。

項目		制度名/対象区域名
		西桂町全域
木竹の伐採	再生資源、その他物件の堆積	<p>(1)周辺の景観を損なわないよう必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2)既存の高木はできるだけ残すよう努める。</p> <p>(3)道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残す。</p> <p>(4)周辺の植生を勘案して植栽等の実施に努める。</p>
	屋外における土石、廃棄物、	<p>(1)道路等その他公共の場からできるだけ離すとともに、規模を必要最小限に抑える。</p> <p>(2)積み上げにあたっては、極力低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。</p> <p>(3)敷地の周辺は、植栽などの自然と調和した遮へい措置を講ずるよう努める。</p>

4. 景観法(忍野村景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名
		景観形成重点地区
建築物	形態意匠	<p>(1) 周囲の山並みと樹林地に囲まれた、盆地の背景と調和した街並みの景色を造り出すよう工夫する。</p> <p>(2) 建築の意匠においては、美しいまちなみや集落景観の創造に寄与すべく、周囲の家屋との適度な調和に配慮する。</p> <p>(3) 一般住宅の様式は和風を原則とし、屋根の形態は入母屋・切妻・寄棟・方形を主体とする。</p> <p>(4) 屋外に設ける設備等は、露出しないようにするか、植栽等で目隠しし、できるだけ突出感や乱雑な印象を与えない意匠とする。</p>
	形態意匠 ┆屋根	<p>(1) 景観重要建造物等伝統的様式の建造物周辺の建築物は、当該建造物と共通性のある色彩を基調とする。</p> <p>(2) 周辺と調和する形態・素材を使用する。</p> <p>(3) 色彩は落ち着いた低明度のこげ茶色等自然素材が持つ色を基調とする。</p>
	形態意匠 ┆外壁	<p>(1) 景観重要建造物等伝統的様式の建造物周辺の建築物は、当該建造物と共通性のある色彩を基調とする。</p> <p>(2) 色彩は、白、黄土色(アイボリー系)又は茶系統等自然素材が持つ色とする。</p> <p>(3) 材料は、周囲の自然環境と調和する材料を使用するように努める。</p>
	形態意匠 ┆配置・規模	<p>(1) 原則として高さは10m以下とする。</p> <p>(2) 落ち着いた、ゆとりある街並みとするため、敷地の許す範囲内において、原則として建築部の外壁またはこれに替わる柱の面は道路境界から2m以上後退した位置に配置する。</p> <p>(3) 物置や車庫などについてもできる限り道路境界線から後退した位置に配置する。</p>
	形態意匠 ┆付帯(屋外施設)	<p>(1) 屋外階段、ベランダなどは建築物本体と調和するよう一体的なデザインとなるよう配慮し、できる限り沿道部に露出しないように配慮する。</p>
	形態意匠 ┆付帯(外構の緑化)	<p>(1) 宅地外構部の修景緑化と母屋と調和する庭木や屋敷林の育成に努める。</p>

項目		制度名/対象区域名
		景観形成重点地区
工作物等	門・塀・垣・柵・擁壁等	<p>(1) 生垣や石材、木材などの天然の材料をできるだけ使い、形状・意匠・色彩は、建築物の基準に準じる。</p> <p>(2) 門形状や垣根、さく、塀の高さは、防犯等に配慮しつつも、忍野らしい良好な近隣関係を維持できるよう閉鎖的な意匠とならないように配慮する。</p> <p>(3) 沿道部に露出する擁壁は圧迫感や不調和感を生じないように、法面化や擁壁前面、上部への植栽、緑化擁壁や表面処理など、デザイン的な処理により景観対策を行う。</p>
	煙突・広告塔等	<p>(1) 田園地帯、富士山などの景観を損なわないことを基本として、建築物に準じたものにする。</p> <p>(2) 位置は、道路及び隣地からできるだけ離し、高さは圧迫感を与えないよう周囲の樹林の高さ以下にするなどできるだけ低く抑え、形状・意匠・色彩・材料は建築物の基準に準じる。</p>
	自動販売機	<p>(1) 屋外へ設置する場合は、木目調などの地味な外装のものを用いるか、目立たないよう周囲を木枠等で囲み、街並みと調和する配置とする。</p> <p>(2) 沿道に設置する場合は、道路境界線から2m以上離して設置し、交差点など目立つ位置への設置は避ける。</p> <p>(3) 目立たない色彩となるよう努める。</p>
	太陽光発電施設	<p>(1) 忍野村太陽光発電施設に関する景観形成基準による。</p>
	木竹の伐採	<p>(1) 樹木の保全育成を基本として、周囲の景観を損なわないよう目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2) 既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ保存するとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3) 道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残す。</p> <p>(4) 伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置(植栽等)の実施に努める。</p>
	土地の形質変更	<p>(1) 残土置き場や資材置き場などは高木植栽等により周囲を囲むなど、景観に配慮する。</p>
	屋外におけるもの集積又は貯蔵	<p>(1) 残土置き場や資材置き場などは高木植栽等により周囲を囲むなど、景観に配慮する。</p>

¹ 工作物;景観法(忍野村景観計画)では、次の①～④に示すものとする。①垣根、さく、塀、門、擁壁その他これに類するもの、②煙突、広告塔その他これに類するもの、③街路灯、照明灯その他これらに類するもの、④自動販売機、その付帯施設その他これらに類するもの

5. 景観法(山中湖村景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名		
		山中湖村村域		
		景観形成重点地区	一般区域	
			自然公園特別地域	自然公園普通地域
建築物・工作物 ¹	形態意匠 「屋根」	(1) 灰黒系色又は焦げ茶色とする。 (2) 彩度6以下、明度2以上とする。		
	形態意匠 「壁面、工作物」	(1) 基本となる色彩(外側の4/5以上を使用する色)は茶系色、ベージュ色、クリーム色、灰系色とする。 (2) 彩度6以下、明度2以上とする。 注) 素材色は上記の2つに制限されない。		
	高さ	— (自然公園法等他法令の規定に従う。)	(1) 15m以下とする。	
	配置	— (自然公園法等他法令の規定に従う。)	(1) 当該建築物の地上部分の水平投影外周線が、敷地境界線から2m以上離れていること。	
	形態意匠 「工作物」	(1) 屋根は勾配屋根とする。 (2) 自然の素材を多用する (3) 色彩は以下のとおりとする。 1) 艇庫、売札所、待合所等 i) 屋根: 灰黒系、こげ茶系 ii) 壁面: 茶色系、ベージュ系、クリーム系、灰系色 2) 栈橋 i) 構造部: 灰黒系、こげ茶系 注) 素材色は上記に制限されない	—	
建築物・工作物	開発行為	(1) 擁壁、法枠等の構造物が生じる場合、素材、表面処理について、周辺景観と調和するものとする。		

1 工作物: 景観法(山中湖村景観計画)では、次の①～⑧に示すものとする。①煙突、高架水槽その他これらに類するもの、②機械式駐車場その他これに類するもの、③擁壁、護岸その他これらに類するもの、④鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱その他これらに類するもの、⑤庭球場等の運動施設その他これに類するもの、⑥門、塀、垣、柵、フェンスその他これらに類するもの、⑦街路灯、照明塔その他これらに類するもの、⑧彫像、記念碑その他これらに類するもの

項目	制度名/対象区域名	
	山中湖村村域	
	景観形成重点地区	一般区域
		自然公園特別地域
屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積	<p>(1) 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げる。</p> <p>(2) 道路等から見えにくいように、植栽の実施、木塀の設置等で遮へいし、その際には周辺の景観に調和するものとする(ただし、河川区域ではこの限りではない)。</p>	
木竹の伐採・特定照明	<p>(1) 自然性の高い樹木や巨樹等貴重な樹木については、極力移植する。伐採した本数と同数の樹木を同敷地内に、周辺景観との連続性に配慮し植栽する。</p> <p>(2) 地域の夜間景観を損なう、過度の明るさや色彩の照明を用いない。</p>	
太陽光発電施設	<p>(1) 山中湖村太陽光発電施設に関する景観形成基準による。</p>	

6. 景観法(鳴沢村景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	暮らし・リゾート景観形成地域	山岳景観形成地域
建築物等の新築、増築若しくは色彩の変更	配置	<p>(1)富士山や周辺の山々の眺望を阻害しないよう配置に留意する。</p> <p>(2)道路・隣地境界線からできるだけ後退し、沿道及び隣地相互に空間を確保する。</p> <p>(3)周辺及び敷地内の建築物との調和に配慮する配置とする。</p> <p>(4)敷地内に大径木や良好な樹林、樹木又は水辺等がある場合や良好な眺望が得られる場合には、これらを活かせる配置とする。。</p>
	外観・規模	<p>(1)周辺や背景となる富士山との調和に努める。</p> <p>(2)個々の建築物等の規模、高さは極力抑え、富士山や周辺の山々の眺望をできるだけ阻害しないよう配慮する</p> <p>(3)周辺のまちなみ景観から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地のバランスに配慮する。</p>
	外観・形態意匠	<p>(1)周辺の建築物等との連続性に配慮するとともに、富士山の眺望や、周辺のまちなみ景観と調和した形態及び意匠となるよう工夫する。</p> <p>(2)神社、舞殿等の文化財、地域のシンボルとなっている景観資源に近接する場合は、これらと調和するよう形態・意匠、色彩及び材料を工夫し、違和感を与えることのないよう配慮する。</p> <p>(3)屋根の形状は原則として勾配屋根とするように努めるものとし、これが困難な場合においては、周辺の景観と調和するデザインを工夫する。</p> <p>(4)外壁又は屋上に設ける設備は、露出しないようにし、できるだけ突出感や乱雑な印象を与えない意匠とする。</p> <p>(5)屋外階段、ベランダ等建物等の本体と一体をなすものを設ける場合には、建築物等の本体との調和に配慮する。</p>
	外観・色彩	<p>(1)外壁及び屋根の色彩は、低彩度で、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、背景となる富士山や周辺の森林等の自然景観、周辺のまちなみ景観に調和した色調とする。</p> <p>(2)使用する色数はできるだけ少なくなるように努める。</p>
	外観・材料	<p>(1)外観及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料はできるだけ避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるように努める。</p> <p>(2)鏡面等の反射光の強い素材はできるだけ用いないように努める。</p>
	屋外照明	<p>(1)照明を設置する場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に散乱しないよう配慮する。</p> <p>(2)商業看板等の照明、ネオンサインなどは、過度な光量、けばけばしい色合いとならないよう配慮する。</p> <p>(3)光源で動きのあるものは、原則として避ける。</p>

項目	制度名/対象区域名	
	暮らし・リゾート景観形成地域	山岳景観形成地域
緑化	<p>(1)敷地内はできるだけ緑化に努めるものとし、特に、道路前面部の敷地(前庭)の緑化に配慮する。</p> <p>(2)既存の樹木は、できるだけ保存もしくは移植し、修景に活かす。</p> <p>(3)使用する樹種は、周辺の樹林や緑地、又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするように努める。</p> <p>(4)建築物等が周辺に与える威圧感、圧迫感及び突出感を和らげるよう、樹木の高さ及びその配置等に配慮する。</p>	
	その他	<p>(1)富士山などの優れた景観を有する場所の近隣にあつては、これらの稜線を乱さないように位置及び高さについて配慮すること。</p> <p>(2)屋外駐車場はできる限り出入口を限定し、周辺を生け垣等で囲うなど、景観的な配慮をする。</p> <p>(3)自動販売機については周辺景観になじむように位置や色彩、デザインの工夫に努める。</p>
工作物の新築、増改築、移転、外観の模様替え又は色彩の変更	垣、さく、塀の類	<p>(1)周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。</p> <p>(2)高さはできるだけ低くし、生垣、石材、木材などの天然の材料を使用するよう努める。これによりがたい場合はこれに準じる工夫をする。</p>
	電線類、鉄塔、アンテナの類	<p>(1)形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(2)色彩については、富士山の眺望、背景となる山並み景観、周辺のまちなみ景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(3)主要な眺望場所からの眺望の妨げにならないよう配置にあたっては特に配慮する。</p> <p>(4)電柱、電話柱などの類はできる限り共架に努め、数をできるだけ少なくする。</p> <p>(5)鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくい位置に設置するとともに。下部を植栽などにより遮へいし、極力目立たないようにする。</p> <p>(6)周辺の景観との調和に配慮した材料を使用すること。</p> <p>(7)敷地内においては緑化に努めること。</p> <p>(8)優れた景観を有する山岳等の近傍にあつては、これらの稜線を乱さないように位置高さについて配慮すること。</p> <p>(9)神社、寺院、遺跡等の歴史的資産の近傍にあつては、これらに違和感を与えることのないように位置、形態、意匠、色彩及び材料について配慮すること。</p>

項目		制度名/対象区域名	
		暮らし・リゾート景観形成地域	山岳景観形成地域
開発行為等	煙突、記念塔、金属柱、高架水槽、彫像の類	<p>富士山の眺望や周辺の山並み、まちなみの景観を損なわないよう、高さや規模をできるだけ抑える。</p> <p>(1)位置は、道路及び隣地からできるだけ後退させる。</p> <p>(2)高さは、周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。</p> <p>(3)形状、意匠は建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。</p> <p>(4)色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。</p>	
	遊戯施設、製造プラント、貯蔵施設、処理施設の類		
	太陽光発電設備の類	<p>(1)鳴沢村太陽光発電施設に関する景観形成基準による。</p>	
開発行為等	土地の形質の変更	<p>(1)土地の形質の変更は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2)周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面などを生じないよう努める。</p> <p>(3)法面を必要とする場合は、できるだけ穏やかな勾配とし、併せて地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。</p> <p>(4)擁壁は、自然に調和した材料、形態、意匠となるよう修景に工夫し、併せて緑化に努める。</p> <p>(5)敷地内に現存する樹林、樹木、水辺等は極力保存し、活用するよう努める。</p> <p>(6)形質の変更終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。</p>	
	鉱物の掘採、又は土石の類の採取	<p>(1)掘採等は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2)掘採等にあたっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地の緑化に努める。</p> <p>(3)掘採等終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。</p>	
	屋外における土石、廃棄物、再生資源、その他物件の堆積	<p>(1)堆積規模は必要最小限に抑えるものとし、位置は、道路その他の公共の場からできるだけ離し、周囲から目立たないような位置とする。</p> <p>(2)積み上げにあたっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。</p> <p>(3)敷地の周辺は、植栽など周辺景観と調和した遮へい措置を講ずるよう努める。</p>	

項目		制度名/対象区域名	
		暮らし・リゾート景観形成地域	山岳景観形成地域
	木竹の伐採	<p>(1)樹林の保全・育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2)既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3)道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残す。</p> <p>(4)伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置(植栽等)の実施に努める。</p>	

7. 景観法(富士河口湖町景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	市街地・田園集落景観形成地域	
建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	配置	<p>(1)富士山や周辺の山々の眺望、湖水景観を阻害しないよう配置に留意する。</p> <p>(2)周辺の街並みの連続性に配慮し、周辺建築物と調和する配置とする。</p> <p>(3)建築物等の壁面線は、敷地の許す範囲内で、できるだけ道路・隣地境界線から後退する。</p> <p>(4)敷地内に大径木や景観的に良好な樹林、樹木又は河川、水辺等がある場合や良好な眺望が得られる場合には、これらを活かせる配置とする。</p>
	外観・規模	<p>(1)国立公園区域内については、建築物等の高さは富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針第4条第2項に基づく基準強化の特例に定めるところによるものとする。</p> <p>(2)個々の建築物等の規模は極力抑え、富士山や周辺の山々の眺望、湖水景観をできるだけ阻害しないように配慮する。</p> <p>(3)周辺の街並み景観から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地のバランスに配慮する。</p>
	外観・形態意匠	<p>(1)周辺の建築物等との連続性に配慮するとともに、富士山の眺望や湖水景観、周辺の街並み景観と調和した形態及び意匠となるよう工夫する。</p> <p>(2)神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボルとなっている景観資源に近接する場合は、これらと調和するよう形態・意匠、色彩及び材料を工夫し、違和感を与えることのないよう配慮する。</p> <p>(3)屋根の形状については、できるだけ勾配屋根とするように努めるものとし、これが困難な場合においては、周辺の街並み景観と調和するデザインを工夫する。</p> <p>(4)外壁又は屋上に設ける設備等は、露出しないようにし、できるだけ突出感や乱雑な印象を与えない意匠とする。</p> <p>(5)屋外階段、ベランダなどは、建物本体と調和するよう配慮する。</p>
	外観・色彩等	<p>(1)外壁及び屋根の色彩は、低彩度で、できるだけ目立たない色彩を基調とし、背景となる富士山や周辺の森林等の自然景観、周辺のまち並み景観に調和した色調とする。</p> <p>(2)使用する色数はできるだけ少なくなるように努める。</p>
	外観・材料	<p>(1)外壁、屋根及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料を極力避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるように努める。</p> <p>(2)鏡面等の反射光の強い素材はできるだけ用いないように努める。</p>
	屋外照明	<p>(1)照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に散乱しないよう配慮する。</p> <p>(2)商業看板等の照明、ネオンサインなどは、過度な光量、けばけばしい色合いとならないよう配慮する。</p> <p>(3)光源で動きのあるものは、原則として避ける。</p>

項目	制度名/対象区域名	
	市街地・田園集落景観形成地域	
	緑化	<p>(1)敷地内はできるだけ緑化に努めるものとし、特に、道路前面部の敷地(前庭)の緑化に配慮する。</p> <p>(2)既存の樹木は、できるだけ保存もしくは移植し、修景に活かす。</p> <p>(3)使用する樹種は、周辺の樹林や緑地、街路樹などと調和し、地域の風土にあったものとするように努める。</p> <p>(4)特に、規模の大きい建築物にあっては、周辺に与える威圧感、圧迫感などを和らげるよう、樹木の高さ及びその配置などに配慮する。</p>
	その他	<p>(1)屋外駐車場はできる限り出入口を限定し、周囲を生け垣等で囲うなど、景観的な配慮をする。</p>
工作物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	垣、さく、塀の類	<p>(1)周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。</p> <p>(2)高さはできるだけ低くし、生け垣、石材、木材などの天然の材料を使用するよう努める。これによらない場合はこれに準じる工夫をする。</p>
	電線類、電柱、鉄塔、アンテナの類	<p>(1)形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(2)色彩については、富士山の眺望や湖水景観、背景となる山並み景観、周辺のまち並み景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(3)主要な眺望場所からの眺望の妨げにならないよう配置に当たっては特に配慮する。</p> <p>(4)電柱、電話柱などの類はできる限り共架に努め、数をできるだけ少なくする。</p> <p>(5)鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくい位置に設置するとともに、下部を植栽などにより遮へいし、極力目立たないようにする。</p> <p>(6)移動通信用鉄塔については、「富士河口湖町景観形成基準の運用(移動通信用鉄塔)」に従うものとする。</p>
	煙突、記念塔、金属柱、高架水槽、彫像の類	<p>(1)国立公園区域内については、工作物の高さは富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針第4条第2項に基づく基準強化の特例に定めるところによるものとする。ただし、町長が公益上必要と認め、かつ景観審議会等の意見を聴いた上で景観上支障がないと認めるものはこの限りではない。</p> <p>(2)富士山や湖水景観、周囲の山並み、まち並みの景観を損なわないよう、高さや規模をできるだけ抑える。</p>
	遊戯施設、製造プラント、貯蔵施設、処理施設の類	<p>(3)配置や形態意匠、色彩、屋外照明、緑化は、建築物に準じて周辺の景観と調和したものとなるよう工夫する。</p>
	太陽光発電設備の類	<p>(1)富士河口湖町太陽光発電施設に関する景観形成基準による。</p>

項目	制度名/対象区域名
	市街地・田園集落景観形成地域
土地の形質の変更	<p>(1)土地の形質の変更は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2)周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面などを生じないように努める。</p> <p>(3)法面を必要とする場合は、できるだけ穏やかな勾配とし、併せて地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。</p> <p>(4)擁壁は、自然に調和した材料、形態、意匠となるよう修景に工夫し、併せて緑化に努める。</p> <p>(5)敷地内に現存する樹林、樹木、河川、水辺等は極力保存し、活用するよう努める。</p> <p>(6)形質の変更終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。</p>
鉱物の掘採、又は土石の類の採取	<p>(1)掘採等は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2)掘採等に当たっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地の緑化に努める。</p> <p>(3)掘採等終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。</p>
屋外における土石、廃棄物、再生資源、その他物件の堆積	<p>(1)堆積規模は必要最小限に抑えるものとし、位置は、道路その他の公共の場からできるだけ離し、周囲から目立たないような位置とする。</p> <p>(2)積み上げにあたっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。</p> <p>(3)敷地の周辺は、植栽など周辺景観と調和した遮へい措置を講ずるよう努める。</p>
木竹の伐採	<p>(1)樹林の保全・育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2)既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3)道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残すようにする。</p> <p>(4)伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置(植栽等)の実施に努める。</p>

項目	制度名/対象区域名										
	湖水・湖畔景観形成地域										
建築物の新築、増築、改築、若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	配置	<p>(1)富士山や湖水などの優れた眺望、背景となる山並み景観や森林景観を損なわないよう配置に留意する。</p> <p>(2)周辺のまち並みの連続性に配慮し、周辺建築物と調和する配置とする。</p> <p>(3)建築物等の壁面線は、敷地の許す範囲内で、できるだけ道路・隣地境界線から後退する。</p> <p>(4)敷地内に大径木や景観的に良好な樹林、樹木又は河川、水辺等がある場合や良好な眺望が得られる場合には、これらを活かせる配置とする。</p>									
	外観・規模	<p>(1)国立公園区域内については、建築物等の高さは富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針第4条第2項に基づく基準強化の特例に定めるところによるものとする。</p> <p>(2)個々の建築物等の規模は極力抑え、富士山や周辺山々の眺望、湖水景観をできるだけ阻害しないように配慮する。</p> <p>(3)周辺のまち並み景観から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地のバランスに配慮する。</p>									
	外観・形態意匠	<p>(1)周辺の建築物等との連続性に配慮するとともに、富士山や背景の山並み景観、湖水景観と調和した形態及び意匠となるよう工夫する。</p> <p>(2)神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボルとなっている景観資源に近接する場合は、これらと調和するよう形態・意匠、色彩及び材料を工夫し、違和感を与えることのないよう配慮する。</p> <p>(3)屋根の形状については、できるだけ勾配屋根とするように努めるものとし、これが困難な場合においては、周辺のまち並み景観と調和するデザインを工夫する。</p> <p>(4)外壁又は屋上に設ける設備等は、露出しないようにし、できるだけ突出感や乱雑な印象を与えない意匠とする。</p> <p>(5)屋外階段、ベランダなどは、建物本体と調和するよう配慮する。</p>									
	外観・色彩等	<p>(1)外壁及び屋根の色彩は、高明度のものは避け、できるだけ目立たない色彩を基調とし、背景となる富士山や周辺の森林等の自然景観に調和した色調とする。</p> <p>(2)基調となる部分(全体の2/3)の彩度は、表の通りとする。ただし、石材、木材などの自然素材、漆喰塗、煉瓦、金属材、ガラス等の表面に着色していない素材色の色彩を除く。</p> <table border="1" data-bbox="300 1617 1061 1877"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>YR(橙)系</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>R(赤)、Y(黄)系</td> <td>3以下</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3)使用する色数はできるだけ少なくなるように努める。</p>	色相	彩度	YR(橙)系	4以下	R(赤)、Y(黄)系	3以下	上記以外	2以下	無彩色
色相	彩度										
YR(橙)系	4以下										
R(赤)、Y(黄)系	3以下										
上記以外	2以下										
無彩色	—										

項目		制度名/対象区域名
		湖水・湖畔景観形成地域
	外観・材料	<p>(1)外壁、屋根及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料を極力避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるように努める。</p> <p>(2)鏡面等の反射光の強い素材はできるだけ用いないように努める。</p>
	屋外照明	<p>(1)照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に散乱しないよう配慮する。</p> <p>(2)光源で動きのあるものは、原則として避ける。</p>
	緑化	<p>(1)敷地内はできるだけ緑化に努めるものとし、特に、道路前面部の敷地(前庭)の緑化に配慮する。</p> <p>(2)既存の樹木は、できるだけ保存もしくは移植し、修景に活かす。</p> <p>(3)使用する樹種は、周辺の樹林や緑地、街路樹などと調和し、地域の風土に合ったものとするように努める。</p> <p>(4)特に、規模の大きい建築物にあつては、周辺に与える威圧感、圧迫感などを和らげるよう、樹木の高さ及びその配置などに配慮する。</p>
	その他	<p>(1)屋外駐車場はできる限り出入口を限定し、周囲を生け垣等で囲うなど、景観的な配慮をする。</p>
工作物の新築、増築、改築、若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	垣、さく、塀の類	<p>(1)周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。</p> <p>(2)高さはできるだけ低くし、生け垣、石材、木材などの天然の材料を使用する努める。これによらない場合は、これに準じる工夫をする。</p>
	電線類、電柱、鉄塔、アンテナの類	<p>(1)富士山の優れた眺望と良好な湖水景観を維持するために、原則として鉄塔、アンテナの類の設置は抑制するものとする。ただし町長が公益上必要と認め、かつ景観審議会等の意見を聞いた上で景観上支障がないと認めるものはこの限りではない。</p> <p>*設置する場合は、以下の事項に配慮する。</p> <p>(2)形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(3)色彩については、富士山の眺望や湖水景観、背景となる山並み景観、周辺のまち並み景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(4)主要な眺望場所からの眺望の妨げにならないよう配置にあたっては特に配慮する。</p> <p>(5)電柱、電話柱などの類はできる限り共架に努め、数をできるだけ少なくする。</p> <p>(6)鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくい位置に設置するとともに、下部を植栽などにより遮へいし、極力目立たないようにする。</p> <p>(7)移動通信用鉄塔については、「富士河口湖町景観形成基準の運用(移動通信用鉄塔)」に従うものとする。</p>

項目		制度名/対象区域名
		湖水・湖畔景観形成地域
煙突、記念塔、金属柱、 高架水槽、彫像の類 遊戯施設、製造プラント、 貯蔵施設、処理施設の類 太陽光発電設備の類		<p>(1) 国立公園区域内については、工作物の高さは富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針第4条第2項に基づく基準強化の特例に定めるところによるものとする。また、原則として煙突、高架水槽、製造プラント、処理施設の類の設置は抑制するものとする。ただし、町長が公益上必要と認め、かつ景観審議会等の意見を聴いた上で景観上支障がないと認めるものはこの限りではない。</p> <p>(2) 富士山や湖水景観、周囲の山並み、まち並みの景観を損なわないよう、高さや規模をできるだけ抑える。</p> <p>(3) 配置や形態意匠、色彩、屋外照明、緑化は建築物に準じて周辺の景観と調和したものとなるよう工夫する。</p>
		<p>(1) 富士河口湖町太陽光発電施設に関する景観形成基準による。</p>
土地の形質の変更		<p>(1) 土地の形質の変更は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2) 周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面などを生じないように努める。</p> <p>(3) 法面を必要とする場合は、できるだけ穏やかな勾配とし、併せて地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。</p> <p>(4) 擁壁は、自然に調和した材料、形態、意匠となるよう修景に工夫し、併せて緑化に努める。</p> <p>(5) 敷地内に現存する樹林、樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するよう努める。</p> <p>(6) 形質の変更終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。</p>
鉱物の掘採又は土石の類の採取		<p>(1) 鉱物の掘採又は土石の類の採取は、原則として抑制するものとする。やむを得ず行う場合においては、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の掘採等とする。</p> <p>(2) 掘採等に当たっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地の緑化に努める。</p> <p>(3) 掘採等終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。</p>
屋外における土石、廃棄物、再生資源、その他物件の堆積		<p>(1) 各種物件の堆積は、原則として抑制するものとする。 * やむを得ず行う場合においては、以下の事項に配慮する。</p> <p>(2) 堆積規模は必要最小限に抑えるものとし、位置は、道路その他の公共の場からできるだけ離し、周囲から目立たないような位置とする。</p> <p>(3) 積み上げにあたっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。</p> <p>(4) 敷地の周辺は、植栽など周辺景観と調和した遮へい措置を講ずるよう努める。</p>
木竹の伐採		<p>(1) 樹林の保全・育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2) 既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3) 道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残すようにする。</p> <p>(4) 伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置(植栽等)の実施に努める。</p>

項目		制度名/対象区域名									
		森林景観形成地域									
建築物の新築、増築、改築、若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	配置	<p>(1) 周囲から極力目立たないような位置に配置し、富士山や周囲の山々の眺望を阻害しないよう努める。</p> <p>(2) 建築物等の壁面線は、敷地の許す範囲内で、道路の境界線から5m以上後退するものとする。</p> <p>(3) 敷地内に大径木や景観的に良好な樹林、樹木又は河川、水辺等がある場合や良好な眺望が得られる場合には、これらを活かせる配置とする。</p>									
	外観・規模	<p>(1) 国立公園区域内については、建築物等の高さは富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針第4条第2項に基づく基準強化の特例に定めるところによるものとし、かつ周辺の樹林の高さを超えないようにする。</p> <p>(2) 周辺の自然景観に対して著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地のバランスに配慮する。</p>									
	外観・形態意匠	<p>(1) 森林など周辺の自然景観と調和した形態・意匠を工夫する。</p> <p>(2) 神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボルとなっている景観資源に近接する場合は、これらと調和するよう形態・意匠、色彩及び材料を工夫し、違和感を与えることのないように配慮する。</p> <p>(3) 屋根の形状は原則として勾配屋根とする。</p> <p>(4) 外壁又は屋上に設ける設備等は、露出しないようにし、できるだけ突出感や乱雑な印象を与えない意匠とする。</p> <p>(5) 屋外階段、ベランダなどは、建物本体と調和するよう配慮する。</p>									
	外観・色彩等	<p>(1) 外壁及び屋根の色彩は、高明度のものは避け、できるだけ目立たない色彩を基調とし、背景となる富士山や周辺の森林等の自然景観に調和した色調とする。</p> <p>(2) 基調となる部分(全体の2/3)の彩度は、表の通りとする。ただし、石材、木材などの自然素材、漆喰塗、煉瓦、金属材、ガラス等の表面に着色していない素材色の色彩を除く。</p> <table border="1" data-bbox="317 1442 812 1700"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>YR(橙)系</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>R(赤)、Y(黄)系</td> <td>3以下</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 使用する色数はできるだけ少なくなるように努める。</p>	色相	彩度	YR(橙)系	4以下	R(赤)、Y(黄)系	3以下	上記以外	2以下	無彩色
色相	彩度										
YR(橙)系	4以下										
R(赤)、Y(黄)系	3以下										
上記以外	2以下										
無彩色	—										
外観・材料	<p>(1) 外壁、屋根及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料を極力避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるように努める。</p> <p>(2) 鏡面等の反射光の強い素材はできるだけ用いないように努める。</p>										

項目		制度名/対象区域名
		森林景観形成地域
	屋外照明	(1)照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に散乱しないよう配慮する。 (2)光源で動きのあるものは、原則として避ける
	緑化	(1)敷地内はできるだけ緑化に努めるものとし、特に、道路前面部の敷地(前庭)の緑化に配慮する。 (2)既存の樹木は、できるだけ保存もしくは移植し、修景に活かす。 (3)使用する樹種は、周辺の樹林や緑地、街路樹などと調和し、地域の風土にあったものとするように努める。 (4)特に、規模の大きい建築物にあつては、周辺に与える威圧感、圧迫感などを和らげるよう、樹木の高さ及びその配置などに配慮する。
	その他	(1)屋外駐車場はできる限り出入口を限定し、周囲を生け垣等で囲うなど、景観的な配慮をする。
工作物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	垣、さく、堀の類	(1)周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。 (2)高さはできるだけ低くし、生け垣、石材、木材などの天然の材料を使用するよう努める。これによらない場合は、これに準じる工夫をする。
	電柱類、電柱、鉄塔、アンテナの類	(1)森林景観や山並み景観を維持するため、原則として鉄塔、アンテナの類の設置は抑制するものとする。また、設置する場合においても高さは30m以下とする。ただし、町長が公益上必要と認め、かつ景観審議会等の意見を聞いた上で景観上支障がないと認めるものはこの限りではない。 *設置する場合は、以下の事項に配慮する。 (2)形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。 (3)色彩については、富士山の眺望や湖水景観、背景となる山並み景観、周辺の町並み景観に配慮した色調を用いる。 (4)主要な眺望場所からの眺望の妨げにならないよう配置にあたっては特に配慮する。 (5)電柱、電話柱などの類はできる限り共架に努め、数をできるだけ少なくする。 (6)鉄塔、アンテナの類は、原則として幹線道路の境界線から15m以上後退するとともに下部を植栽などにより遮へいし、極力目立たないようにする。 (7)移動通信用鉄塔については、「富士河口湖町景観形成基準の運用(移動通信用鉄塔)」に従うものとする。
	煙突、記念塔、 金属柱、高架水槽、 彫像の類	(1)国立公園区域内については、工作物の高さは富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針第4条第2項に基づく基準強化の特例に定めるところによるものとし、かつ周辺の樹林の高さを超えないようにする。また、原則として煙突、高架水槽、製造プラント、処理施設の類の設置は抑制するものとする。ただし、町長が公益上必要と認め、かつ景観審議会等の意見を聞いた上で景観上支障がないと認められるものはこの限りではない。
製造プラント、 遊戯施設、 貯蔵施設の類	(2)富士山や湖水景観、周囲の山並み、まち並みの景観を損なわないよう、高さや規模をできるだけ抑える。 (3)配置や形態意匠、色彩、屋外照明、緑化は、建築物に準じて周辺の景観と調和したものとなるよう工夫する。	

項目		制度名/対象区域名
		森林景観形成地域
	太陽光発電設備の類	(1)富士河口湖町太陽光発電施設に関する景観形成基準による。
	土地の形質の変更	<p>(1)土地の形質の変更は必要最低限に抑えるものとする。</p> <p>(2)周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面などを生じないように努める。</p> <p>(3)法面を必要とする場合は、できるだけ緩やかな勾配とし、併せて地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。</p> <p>(4)擁壁は、自然に調和した材料、形態、意匠となるよう修景に工夫し、併せて緑化に努める。</p> <p>(5)敷地内に現存する樹林、樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するよう努める。</p> <p>(6)形質の変更終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。</p>
	鉱物の掘採または土石の類の採取	<p>(1)鉱物の掘採又は土石の類の採取は、原則として抑制するものとする。やむを得ず行う場合においては、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の掘採等とする。</p> <p>(2)掘採等に当たっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地の緑化に努める。</p> <p>(3)掘採等終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。</p>
	屋外における土石、廃棄物、再生資源、その他物件の堆積	<p>(1)各種物件の堆積は、原則として抑制するものとする。 *やむを得ず行う場合においては、以下の事項に配慮する。</p> <p>(2)堆積規模は必要最小限に抑えるものとし、位置は、道路その他の公共の場からできるだけ離し、周囲から目立たないような位置とする。</p> <p>(3)積み上げにあたっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。</p> <p>(4)敷地の周辺は、植栽など周辺景観と調和した遮へい措置を講ずるよう努める。</p>
	木竹の伐採	<p>(1)森林の伐採は原則として抑制するものとし、やむを得ず伐採する場合においては、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2)既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3)道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残すようにする。</p> <p>(4)伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置(植栽等)の実施に努める。</p>

8. 景観法(富士宮市景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名																		
		富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域																	
建築物の新築など	配置等	(1)尾根線上や主要な眺望点から目につく丘陵地での建築物の配置は避ける。 (2)主要な眺望点からランドマークとなる富士山などへの見通し線を確保する。																		
	壁面の位置・形態・意匠	(1)主要な道路に面する壁面の位置は、原則として道路から見て圧迫感を感じない距離を確保することとし、それが困難な場合は、中高木による植栽帯を設け、建築物の圧迫感、違和感を和らげる。 (2)地形等と調和した変化のある建物配置や壁面に凹凸をつけるなど、陰影のある建築形態とする。 (3)歩行者の目に留まりやすい建築物の低層部は、飽きのこない、永く愛されるデザインとする。 (4)商業・業務施設、住宅などの建築物にあつては、窓、ベランダ、バルコニーの形態や仕上げ材を工夫することにより壁面を分節化する。 (5)外壁の仕上げ材は、周辺景観になじみ、かつ耐久性や耐候性に優れた素材を使用する。また、反射の強い素材の使用を避ける。 (6)自然に囲まれた場所においては、木材(富士ひのき等)や石材などの自然素材を積極的に活用する。																		
	壁面、屋根の形態・色彩	(1)屋根は、周辺の地形やまち並みなどの基調を確認し、これと調和する形状とする。 (2)富士山をはじめとする豊かな自然景観を維持していくために、富士山麓などの景観にふさわしい穏やかな色彩を用いることとする。あざやかさを抑えた落ち着いた色彩を基本とし、自然景観とよくなじみ、建材の標準色がもっとも多く設定されているYR(黄赤)、Y(黄)系の一部色相については、緩和された彩度基準の中で選択するものとする。																		
	基準色の範囲	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>色相¹</th> <th>明度²</th> <th>彩度³</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外壁基調色</td> <td>10YR～5Y</td> <td>7.9～5</td> <td>2.5以下</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7.9～5</td> <td>0.5以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋根色</td> <td>10YR～5Y</td> <td>4.9以下</td> <td>2.5以下</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4.9以下</td> <td>0.5以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ ただし、上記の範囲内におさめることが困難と認める場合には、やや幅のある色彩の設定とした以下の範囲の色彩を用いることができるものとする。</p>		項目	色相 ¹	明度 ²	彩度 ³	外壁基調色	10YR～5Y	7.9～5	2.5以下	その他	7.9～5	0.5以下	屋根色	10YR～5Y	4.9以下	2.5以下	その他	4.9以下
項目	色相 ¹	明度 ²	彩度 ³																	
外壁基調色	10YR～5Y	7.9～5	2.5以下																	
	その他	7.9～5	0.5以下																	
屋根色	10YR～5Y	4.9以下	2.5以下																	
	その他	4.9以下	0.5以下																	

¹ 色相;色味の度合いを色相として表す。色相は、R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)など各色相の頭文字と、その度合いを表す0から10までの数字を組み合わせる用いる。
² 明度;色の明るさの度合いを表す。0から10までの数字を用い、明るい色ほど数値が大きくなる。色相をもたない無彩色はN9と
 いうように、最初にNをつけて表す。
³ 彩度;色のあざやかさの度合いを表す。あざやかな色ほど数値が大きくなるが、最大の数値は色相によって異なる。

項目	制度名/対象区域名					
	富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域				
建築物の新築など	最低基準色の範囲(外壁基調色)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>トーン¹</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R系、YR系、Y系、GY系、G系、BG系色相の範囲内及び彩度0.5以下の無彩色</td> <td>N2、N3、N4、L2、L3、M2トーンの範囲内</td> </tr> </tbody> </table>	色相	トーン ¹	R系、YR系、Y系、GY系、G系、BG系色相の範囲内及び彩度0.5以下の無彩色	N2、N3、N4、L2、L3、M2トーンの範囲内
	色相	トーン ¹				
	R系、YR系、Y系、GY系、G系、BG系色相の範囲内及び彩度0.5以下の無彩色	N2、N3、N4、L2、L3、M2トーンの範囲内				
最低基準色の範囲(屋根色)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>トーン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R系、YR系、Y系、GY系、G系、BG系色相の範囲内及び彩度0.5以下の無彩色</td> <td>N3、N4、L3トーンの範囲内</td> </tr> </tbody> </table>	色相	トーン	R系、YR系、Y系、GY系、G系、BG系色相の範囲内及び彩度0.5以下の無彩色	N3、N4、L3トーンの範囲内	
色相	トーン					
R系、YR系、Y系、GY系、G系、BG系色相の範囲内及び彩度0.5以下の無彩色	N3、N4、L3トーンの範囲内					
色彩	<p>(1) 太陽光発電設備を屋根材又は外壁材として使用する場合は、その他の屋根材又は外壁材と調和するものとする。</p> <p>(2) 建築物の外壁の強調色(アクセントカラー)は建物見付面積の10分の1以下とし、必要最小限の使用を基本とする。</p> <p>(3) ただし、屋外広告物の壁面広告及び屋上広告において、強調色を使用しているものは、外壁の強調色として積算するものとする。</p>					
高さ	<p>(1) 主要な眺望点や道路から見たとき、富士山や天子山系の稜線を遮らない建築高とする。</p> <p>(2) 樹林地にあっては、後背地にある斜面緑地のスカイラインを遮ることなく、かつ斜面緑地ができるだけ多く見えるような建築高とする。</p> <p>(3) 周辺のまち並みがつくるスカイラインに配慮した建築高とする。</p> <p>(4) 市街化調整区域における高さは15m以下とする。ただし、景観上支障のない場合はこの限りではない。</p>					

¹ トーン;色調と呼ばれ、色の強弱や軽重、濃淡など、色が与える印象と深く関わっている。また、各色相の色を彩度別に4段階に分け、さらに明るさを加味して、最終的に10種のトーンを設定している。

項目	制度名/対象区域名	
	富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域
塔屋・設備類	<p>(1) 塔屋、設備類は、建築物と一体化させる。それが困難な場合は、ルーバー¹などにより囲み、修景を施す。</p> <p>(2) 壁面の配管類、バルコニーの室外空調機器、屋外用パワーコンディショナーなどは、建築物と一体化するか、又は、通りから見えない位置に設置する。それが困難な場合は、壁面と同系色にするなどの修景を図る。</p> <p>(3) アンテナ類は共同化、集約化する。</p> <p>(4) 太陽電池モジュールの色彩は、黒色又は濃紺色若しくは建築物と一体に見える低明度かつ低彩度の目立たないものを使用し、低反射で、できるだけ模様が目立たないものを使用する。</p> <p>(5) 太陽電池モジュールのフレームの色彩は、できるだけモジュール部分と同等のものとし、低反射のものを使用するよう努める。</p> <p>(6) 太陽光発電設備を勾配屋根に設置する場合は、最上部が建築物の棟を超えないものとし、屋根と一体化させる。</p> <p>(7) 太陽光発電設備を陸屋根に設置する場合は、最上部をできるだけ低くし、建築物と一体化させるか、又は、ルーバーなどにより修景を施す。</p>	
建築物の新築など	垣・柵・門扉など	<p>(1) 原則として境界部デザインは、基壇に自然石(富士山の土石)を活用した石積みと植栽の組み合わせによるものとする。</p> <p>(2) 敷地境界部に擁壁ができる場合は、緑化ブロックやツタ性植物により修景を図る。</p> <p>(3) 垣の高さは、歩行者の視界が確保できる程度の高さとする。(参考:H=1.5~2.0m)</p> <p>(4) フェンス、柵などが機能上必要な場合は、周辺景観に調和したデザインとし、可能な限り前面の緑化修景により周辺になじんだものとする。</p> <p>(5) 門扉などは、周辺の景観と調和した形態、意匠とする。</p>
	敷地内緑化	<p>(1) 既存の樹木は、建築物配置の工夫、移植などにより、出来る限り残すように努める。</p> <p>(2) 敷地内空地の緑化に努める。その際、自然植生を考慮するとともに、周辺の樹木との調和を得られる樹種とする。</p> <p>(3) 屋上緑化、ベランダ緑化、外壁面のツル性植物などによる垂直緑化により、緑視率を高める。</p> <p>(4) エントランス、敷地コーナーなど人通りの多い場所には、花壇やプランターボックスの植栽などによる演出を行う。</p> <p>(5) 敷地内の道路に面する部分は、中高木を主体とする植栽により、歩行者等から見た効果的な緑化を図る。</p>
	駐車場、サービスヤード、駐輪場	<p>(1) 駐車場、サービスヤード²などは、歩行者から直接見えない位置に配置する。</p> <p>(2) 駐車場、サービスヤードなどがやむを得ず通りに面する場合は、植栽などにより歩行者から見えないよう修景を施す。</p> <p>(3) 駐車場は緑の多用により周辺環境との調和を図る。</p>

¹ ルーバー;羽板を並べて開口部に設けた一種のよろい戸。

² サービスヤード;洗濯・物干し・日曜大工など、屋外における家事用に設けた庭。

項目	制度名/対象区域名	
	富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域
資材置き場など ごみ置き場、 屋外照明 工作物		(1)ごみ置き場は、回収方法を考慮しながら、歩行者の見えない位置に配置するか、建物と一体的なデザインとして修景する。 (2)資材置き場は、原則として歩行者より見えない位置に配置することとし、それが困難な場合は歩行者等からの見え方に効果的な植栽による修景を行う。
		(1)歩行者の安全性や快適性に配慮した夜間の照明計画を行う。 (2)自然地内での夜間の暗がりを侵すような照明の設置は避ける。
		(1)工作物 ¹ は、原則として歩行者より見えない位置に配置することとし、それが困難な場合は歩行者等からの見え方に効果的な植栽による修景を行う。 (2)建築物と一体となっている工作物は、建築物本体と同じデザイン、色調とする。 (3)できるだけシンプルな形態とし、周辺景観になじむよう配慮する。
工作物の新設など	高架水槽、冷却塔、煙突、排気塔、電波塔など	(1)稜線を乱さないようにできるだけ尾根上での設置は避ける。 (2)主要な眺望点、主要な道路などから見た場合に、周辺の景観がつくるスカイラインを遮らないようにする。 (3)敷地境界から5m以上後退する。ただし、それが困難な場合は緑化等により周辺環境に配慮する。 (4)形態は簡素化したデザインとする。 (5)市街地にある工作物 ² の基壇部には、できるだけ修景緑化を図る。
	記念塔、記念像など	(1)尾根線上、丘陵地、高台での設置は避ける。 (2)原則として敷地境界から10m以上後退する。ただし、周辺の景観との調和が図られている場合はこの限りではない。 (3)主要な眺望場、主要な道路などから見た場合に、富士山、天子山系がつくる稜線を遮らないようにする。 (4)周辺景観になじむ形態とする。 (5)周辺景観との調和のため、修景緑化を図る。
	コースター、観光用昇降機、観覧車など	(1)主要な眺望点、主要な道路などから見た場合に、富士山や天子山系がつくる稜線を遮らないようにする。 (2)敷地境界から10m以上後退する。 (3)敷地外周部には、敷地の規模に応じた樹木により周辺景観との緩衝帯となる植栽を行う。

¹ 工作物：この項目における工作物は、建築物に付属する工作物を指し、単独では届出対象にならないものをいう。

² 工作物：景観法(富士宮市景観計画)では、次の①～⑩に示すものとする。①高架水槽、冷却塔その他これらに類する物件、②煙突、排気塔その他これらに類する物件、③電波塔その他これらに類する物件、④記念塔、記念像その他これらに類する物件、⑤観光用昇降機、コースター、観覧車その他これらに類する物件、⑥高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋その他これらに類する物件、⑦垣、さく、擁壁その他これらに類する物件、⑧石油タンク、ガスタンク、サイロその他これらに類する物件、⑨花壇その他これらに類する物件、⑩屋外に設置されたクレーン等の生産設備その他これらに類する物件⑪太陽光発電設備、風力発電設備その他これらに類する物件

項目	制度名/対象区域名	
	富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域
太陽光発電設備 風力発電設備など 橋りょう、高架道路、高架鉄道、横断歩道など その他の工作物	太陽光発電設備	<p>(1) 尾根線上、丘陵地、高台での設置は避ける。</p> <p>(2) 太陽光発電設備の最上部は、できるだけ低くし、周囲の景観から突出しないようにする。</p> <p>(3) 歩行者及び周辺の景観へ影響のあるものは、敷地境界からできるだけ後退し、必要に応じ植栽などにより修景を施す。</p> <p>(4) 主要な眺望点、主要な道路などから見た場合に、富士山や天子山系への景観を阻害しないよう配置の工夫や植栽などにより修景を施す。</p>
	風力発電設備など	<p>(1) 尾根線上、丘陵地、高台での設置は避ける。</p> <p>(2) 主要な眺望点、主要な道路などから見た場合に、富士山や天子山系への景観を阻害しないよう配置の工夫や植栽などにより修景を施す。</p> <p>(3) 主要な眺望点、主要な道路などから見た場合に、富士山や天子山系がつくる稜線を遮らないようにする。</p>
	橋りょう、高架道路、高架鉄道、横断歩道など	<p>(1) 設置にあたっては、周辺の地勢、環境、自然植生、生態系などに配慮する。</p> <p>(2) 周辺の景観を乱さないようにできるだけ簡素な形態とする。</p>
	その他の工作物	<p>(1) 設置にあたっては、周辺の地勢、環境、自然植生、生態系などに配慮する。</p> <p>(2) 歩行者及び周辺の景観へ影響のあるものは、敷地境界からできるだけ後退する。</p> <p>(3) 主要な眺望点、主要な道路などから見た場合に、富士山、天子山系がつくる稜線を遮らないようにする。</p> <p>(4) 周辺景観になじむ形態とする。</p> <p>(5) 周辺景観との調和のため、修景緑化を図る。</p>
工作物の新設など	工作物の色彩	<p>(1) 背景となる自然景観や近隣の建築物や工作物との調和に配慮し、周囲の環境から著しく突出するような色彩を基調とすることを避ける。</p> <p>(2) 富士山や朝霧、天子山系の山々の景観と融和する色彩を基調とする。</p> <p>(3) 近隣の建築物との調和に配慮し、かつ富士山の眺望景観を阻害しない色彩を基調とする。</p> <p>(4) 富士山をはじめとする豊かな自然景観を維持していくために、鉄塔、電波塔などについては、次に示す色彩を用いることとする。</p> <p>1) 富士山等景観保全地域: 低光沢のもの N4.5以下</p> <p>2) 富士山等眺望保全地域: 低光沢のもの N4.5～N6(周辺環境により判断する。)</p> <p>(5) 太陽電池モジュールの色彩は、黒色又は濃紺色若しくは周辺の景観と調和する低明度かつ低彩度のもを使用し、低反射で、できるだけ模様が目立たないものを使用する。</p> <p>(6) 太陽電池モジュールのフレームの色彩は、できるだけモジュール部分と同等のものとし、低反射のものを使用するよう努める。</p> <p>(7) パワーコンディショナーなど附属設備の色彩は、周囲の景観と調和するものを使用する。</p>

項目	制度名/対象区域名	
	富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域
特定工作物及び運動・レジャー施設に関する開発行為	造成	<p>(1) 地形、地物にあわせた造成とし、切土、盛土の発生を最小限に抑える。</p> <p>(2) 法面はできるだけ緩い勾配(30度以下)とし、表面は緑化する。</p> <p>(3) 地形上やむを得ず急傾斜の法面や擁壁ができる場合は、緑化等により周辺環境に配慮する。</p> <p>(4) 敷地内に舗装等を施す場合は、できる限り、浸透性のある素材を用いる。</p> <p>(5) 地下水脈を分断しないよう十分注意する。</p>
	道路	<p>(1) 地形、地物にあわせた道路線形とし、切土、盛土の発生を最小限に抑える。</p> <p>(2) 道路の線形は、富士山、天子山系の稜線に対してのシーケンス景観に配慮する。</p> <p>(3) 法面はできるだけ緩い勾配(30度以下)とし、表面は緑化する。</p> <p>(4) 地形上やむを得ず急傾斜の法面や擁壁ができる場合は、緑化等により周辺環境に配慮する。</p> <p>(5) 街路樹は、自然植生や周辺の樹木に配慮した樹種とする。</p> <p>(6) 街路灯はできるだけ簡素な形態とする。</p> <p>(7) 防護柵等の設置については、周辺環境に配慮したデザイン、色彩とする。</p> <p>(8) 電柱の設置はできるだけ避け、電線の地中化を行う。その際、配電盤、変圧器などは周辺の景観から目立たないように配慮する。</p> <p>(9) やむを得ず電柱を設ける場合は、富士山に対して反対側に設置するとともに、周辺環境に調和した色彩とする。</p>
	緑、植栽	<p>(1) 緑地率は20%以上を確保する。ただし、それが困難な場合は、中高木を効果的に配置し、歩行者等から見た効果的な緑化を図る。</p> <p>(2) 植栽に当たっては、自然植生に配慮する。</p> <p>(3) 既存の樹木の伐採は、小規模に留める。やむを得ない場合は、その周辺に移植する。</p> <p>(4) 主な眺望点から見た場合に、富士山の標高400m以上の山腹での著しく確認できる大規模な自然樹木の伐採は避ける。</p> <p>(5) 水源かん養保安林、環境保護林などの一団の樹林帯を分断する場合、適切な幅の林縁群落を設ける。</p> <p>(6) 開発区域内に公園を設ける場合は、富士山を望むことができる眺望空間を確保する。</p>
	河川、調整池など	<p>(1) 河川、水路や湧水池がある場合は、その水質を汚さないよう十分注意する。</p> <p>(2) 河川、水路や湧水池がある場合、その護岸はできるだけ自然石などの自然素材を用い、必要に応じて親水性のある形態となるようにする。</p> <p>(3) 調整池の周囲は緑化等により修景を行う。</p>

項目		制度名/対象区域名	
		富士山等景観保全地域	富士山等眺望保全地域
特定工作物及び運動・レジャー施設に関わる開発行為	工作物	(1) 工事用仮囲いは、できるだけ周辺の景観を乱さないよう修景を図る。	
	その他	<p>土石の採取、その他の形質の変更</p> <p>(1) 採取後の状態が、採取前の自然に近づく工法を採用する。</p> <p>(2) 採取する土地は、周囲から目立たないようにできる限り以下の措置を講じる。</p> <p>1) 敷地の周囲を緑化等により修景する。</p> <p>2) 周囲から見えにくいように、隣接する環境と調和した垣、柵、フェンス等を設置する。</p>	
	屋外における石などの堆積	<p>(1) 堆積物が周囲の景観に及ぼす影響を小さくするため、できる限り堆積物の高さを低くするとともに、整然とした堆積とする。</p> <p>(2) 周囲から目立たないようにできる限り以下の措置を講じる。</p> <p>1) 敷地の周囲を緑化等により修景する。</p> <p>2) 周囲から見えにくいように、隣接する環境と調和した垣、柵、フェンス等を設置する。</p>	

項目		制度名/対象区域名																							
		重点地区(浅間大社周辺地区)																							
建築物・工作物	高さ	<p>(1)風致地区¹は、8m以下とする。</p> <p>(2)高度地区¹(第1種)は、10m以下とする。</p> <p>(3)高度地区(第2種)は、13m以下とする。</p> <p>(4)高度地区(第3種)は、15m以下とする。</p> <p>(5)高度地区(第4種)は、20m以下とする。</p> <p>・建築物の高さの算定は、地盤面から階段室、昇降機塔、装飾塔、物見塔、屋窓その他これらに類する建築物の屋上部分の最上部までとする。高度地区の規定と同様とする。</p> <p>・建築物の屋上部分に設置する工作物の高さの算定は、地盤面から当該工作物の最上部までとする。</p> <p>・国・県・市指定の文化財・史跡等、及び高度地区の適用除外・許可による特例の物件については、この高さの規定は適用しない。</p> <p>*重点地区の北側及び東側隣接地域(概ね都市計画道路 3・4・24 阿幸地青見線まで)は、一般共通基準(一定規模以上の各種行為の届出に関する景観形成基準)において25m以下の規定あり</p>																							
	色彩	<p>・建築物の外壁、屋根の色彩は、以下のとおりとすること。</p> <p>外壁基準色</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無彩色</td> <td>0~10</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>R、YR、Y</td> <td>8以下</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8以下</td> <td>2以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>屋根基準色</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無彩色</td> <td>5以下</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>R、YR、Y</td> <td>5以下</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5以下</td> <td>2以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>・建物見付面積の10分の1以下の範囲で使用可能な外壁の強調色(アクセントカラー)については、この限りではない。</p> <p>・着色していない木材、土壁、ガラス等の材料によって仕上げられる部分については、この限りではない。</p> <p>・工作物の色彩は、建築物の外壁基準色の範囲において、かつ、近隣の建築物や工作物との調和に配慮し、周辺環境から突出しないようなものを使用する。</p>	色相	明度	彩度	無彩色	0~10	—	R、YR、Y	8以下	4以下	その他	8以下	2以下	色相	明度	彩度	無彩色	5以下	—	R、YR、Y	5以下	4以下	その他	5以下
色相	明度	彩度																							
無彩色	0~10	—																							
R、YR、Y	8以下	4以下																							
その他	8以下	2以下																							
色相	明度	彩度																							
無彩色	5以下	—																							
R、YR、Y	5以下	4以下																							
その他	5以下	2以下																							

¹風致地区・高度地区;都市計画法における指定。

制度名/対象区域名	
重点地区(浅間大社周辺地区)	
建築付帯設備	<p>(1)塔屋、設備類は、建築物と一体化させる。それが困難な場合は、ルーバーなどにより囲み、修景を施す。</p> <p>(2)壁面の配管類、屋外用パワーコンディショナーなどは、建築物と一体化するか、又は、視点場や通りから見えない位置に設置する。それが困難な場合は、壁面と同系色にするなどの修景を図る。</p> <p>(3)太陽電池モジュールの色彩は、黒色又は濃紺色若しくは建築物と一体に見える低明度かつ低彩度の目立たない物を使用し、低反射で、できるだけ模様が目立たない物を使用する。</p> <p>(4)太陽電池モジュールのフレームの色彩は、できるだけモジュール部分と同等のものとし、低反射の物を使用するよう努める。</p> <p>(5)太陽光発電設備を勾配屋根に設置する場合は、最上部が建築物の棟を超えないものとし、屋根と一体化させる。</p> <p>(6)太陽光発電設備を陸屋根に設置する場合は、最上部をできるだけ低くし、建築物と一体化させるか、又は、ルーバーなどにより修景を施す。</p> <p>(7)風力発電設備は、原則として屋根又は屋上等に設置しないものとする。</p>
屋外広告物	<p>(1)屋上広告は設置しない。</p> <p>(2)突出看板は、建築物等と一体化を図り、看板の面積は最小限に留める。</p> <p>(3)広告塔など独立した屋外広告物を設置する場合は、集約化、小面積化、デザインの高質化、落ち着いた色合いを使用するなど、周辺景観との調和に配慮する。</p> <p>(4)光源が点滅するネオンサイン等を行わない。</p> <p>(5)一般県道富士宮富士公園線、一般県道富士富士宮線、主要地方道富士富士宮由比線の道路境界から10m以内及び風致地区内における屋外広告物は次のとおりとする。</p> <p>①壁面広告、突出看板は、地色を外壁と同系色とする。</p> <p>②広告塔、広告板は、脚柱をダークブラウン、地色を色彩基準の屋根基準色の範囲内とする。</p> <p>③日除けのれんなどは、落ち着いた色合いとする。</p> <p>ただし、上記において、木材や石材などの自然素材を活用する場合はこの限りではない。</p>
サイン	<p>(1)富士山本宮浅間大社の門前町や歴史的雰囲気との調和に配慮した材質、色彩、デザインとなるよう工夫する。</p>
ストリートファニチャー	<p>(1)ベンチやモニュメントなどは、富士山本宮浅間大社の歴史性と神田川のうるおいある緑や水辺に配慮したデザインとする。</p>
自動販売機	<p>(1)一般県道富士宮富士公園線、一般県道富士富士宮線、主要地方道富士富士宮由比線の道路境界から10m以内及び風致地区内に設置する場合は、周辺景観と調和するようダークブラウンやグレイベージュなどとする。</p>
照明	<p>(1)柔らかな光源色の落ち着いたきのある照明を採用し、情緒ある夜間景観の演出に努める。</p>

制度名/対象区域名	
重点地区(浅間大社周辺地区)	
緑化など	<p>(1)既存の樹木は、建築物配置の工夫、移植などにより、出来る限り残すように努める。</p> <p>(2)敷地内空地の緑化に努める。その際、自然植生を考慮するとともに、周辺樹木との調和を得られる樹種とする。</p> <p>(3)屋上緑化、ベランダ緑化、外壁面のツル性植物などによる垂直緑化により、緑視率を高める。</p> <p>(4)エントランス、敷地コーナーなど人通りの多い場所には、植栽などによりうるおいを与える演出に努める。</p> <p>(5)敷地内の道路に面する部分は、中高木を主体とする植栽により、歩行者等から見た効果的な緑化を図る。</p> <p>(6)フェンス、柵などが機能上必要な場合は、周辺景観に調和したデザインとし、可能な限り前面の緑化修景に努める。</p> <p>(7)視点場を結ぶ動線上や神田川沿いの歩行空間を中心に、季節感のある花を用いたまち並みを彩る修景植栽など、水と緑が調和したうるおいのある景観形成に努める。</p>

9. 景観法(富士市景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	用途地域が指定されていない区域	
建築物・工作物(煙突、排気塔その他これらに類するものを除く)	色彩	<p>(1) 建築物及び工作物¹の外観の色彩基準の数値は、マンセル値に基づき、次のとおりとする。</p> <p>ただし、着色していない木材、ガラスなどの材料によって仕上げられる部分の色彩、または建築物及び工作物の見付面積の5分の1未満の範囲内で外観のアクセント色として着色される部分の色については、この限りではない。</p> <p>1) 0R(≠10RP)～10R 彩度3以下とする。</p> <p>2) 0YR(≠10R)～5Y 彩度4以下とする。</p> <p>3) 上記以外の色相 彩度2以下とする。</p>
煙突、排気塔その他これに類するもの	色彩	<p>(1) 煙突、排気塔のその他これらに類するものの外観の色彩基準の数値は、マンセル値に基づき、次のとおりとする。</p> <p>1) 色相は5Y～5PB、もしくは無彩色とする。住宅地及び商業地エリアに立地する場合は、これに加え、0YR(≠10R)～5Yの色相も認める。</p> <p>2) 明度は7以上とする。</p> <p>3) 彩度は2以下とする。</p> <p>4) 工場地色彩ガイドラインを参考にカラーデザインすること。</p> <p>(2) ただし、航空法により昼間障害標識を設置しなければならない物件(国土交通大臣が昼間障害標識を設置する必要がないと認めたもの及び高光度航空障害灯または中光度白色航空障害灯を設置するものを除く)、また市長が良好な都市景観を害する恐れがないと認めた場合においては、この限りではない。</p>

¹ 工作物:景観法(富士市景観計画)では、次の①～⑩に示すものとする。①垣、さく、擁壁その他これらに類する物件、②高架水槽、冷却塔、実験塔その他これらに類する物件、③煙突、排気塔その他これらに類する物件、④記念塔その他これに類する物件、⑤石油タンク、ガスタンクその他これらに類する物件、⑥電波塔、送電用鉄塔その他これらに類する物件、⑦高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋その他これらに類する物件、⑧太陽光発電設備、風力発電設備その他これらに類する物件、⑨展望台、コースター、観覧車その他これらに類する物件⑩前各号に定めるもののほか、良好な景観の形成を妨げる恐れがある工作物として市長が指定するもの

10. 景観法(御殿場市景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名
		市全域
建築物・工作物の建築等	配置	(1)敷地周辺から富士山や箱根山系への眺望を損なわないよう、建築物等は道路からできる限り後退し、道路側に空地を確保するよう努める。 (2)まとまりある農地、歴史的まちなみや集落、文化財、地域のシンボル等の景観資源に近接する場合は、その保全に配慮した配置および外観とする。
	高さ	(1)山稜の近傍にあつては、稜線(スカイライン)を乱さないよう、尾根からできるだけ低い配置および規模とする。 (2)周辺に山林等樹木が多くある場合は、できる限り周辺の樹木の高さ以内にとどめる。
	形態・意匠	(1)周辺や背景の自然景観やまちなみ景観と調和する形態、意匠とする。 (2)規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図る。 (3)屋根は勾配を有する形態に努める。
	色彩	(1)建築物および工作物の外観の基調色は、落ち着いた色彩または素材色とし、彩度の高い色は避ける。ただし、周囲と調和する場合は明るい色彩を使用してもよい。 (2)アクセント色の使用等に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスを工夫する。
	敷地の緑化	(1)敷地内では、できる限り多くの部分を緑化する。 (2)周辺の建築物等と比べて相当大規模な建築物等にあつては、建築物等のまわりの緑化により圧迫感、威圧感の軽減に努める。
	外構(垣・柵等)	(1)塀や垣等を設ける場合は、できる限り生け垣または、自然素材を用いた垣柵とする。 (2)これによらない場合は、周辺の景観および建築物等に調和したものとし、できる限り柵・塀の全面の緑化に努める。
	夜間照明	(1)夜間の屋外照明は、過剰な電飾等の光が周囲に散乱しないようにし、周辺の状況に応じた適切な照明方法等を工夫する。
	駐車場等	(1)駐車場や駐輪場は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努める。
建築設備	(1)建築設備は、前面の道路から見えない位置に配置する。ただし、ルーバーの設置等により当該設備が直接露出しないよう修景を行った場合は、この限りでない。	

項目		制度名/対象区域名
		市全域
(メガソーラー) 大規模太陽光発電施設 (風力発電施設)		(1) 太陽光モジュールの色彩は光沢のない黒または濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。 (2) 基礎架台の色彩についても、周辺の景観との調和に配慮した色彩とすること。 (3) 配慮の工夫や植栽により目隠しをする等、公共的な場所から直接見えないよう配慮すること。
	開発行為	(1) 現況の地形をできる限り活かし、長大な擁壁や法面が生じないようにすること。 (2) 擁壁は、素材、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観およびまちなみとの調和に努めること。 (3) 法面は、緑化等により周辺の景観およびまちなみとの調和に努めること。 (4) 良好な既存の樹木は出来る限り保全および活用に努めること。
	特定照明	(1) 地域の夜間景観を損なう、過度の明るさや色彩の照明を用いないこと。 (2) 特定の対象物を照射するものとし、光源を空、道路、鉄道等公共空間に向けての照射を避けるとともに、光源等にカバーやルーバーを設置する等により、周辺や上空へ光が漏れるのを防止すること。

11. 景観法(裾野市景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名
		市全域
建築物の新築など	配置	(1) 富士山などの眺望を阻害しないような配置とすること。 (2) 周辺の地形やまち並みなど周辺景観から突出した印象とならないような配置とすること。
	高さ	(1) 富士山などの眺望景観や自然景観、周辺のまち並み景観を阻害しない高さとする。
	形態	(1) 建築物の形態や屋根形状は、後背の自然景観との調和に配慮するとともに、まち並み景観の統一感や連続性を高めるものとする。
	壁面	(1) 建築物の壁面は、威圧感をできる限りなくすこと。
	色彩	(1) 建築物の壁面、屋根及び工作物の色彩は、周辺景観や後背の自然景観との調和に努め、彩度は抑えること。 (2) 色数は全体で5色以内となるように努め、木・土・コンクリート・ガラスなどは、その配色が著しく目立った印象とならないようにすること。
	材料	(1) 材料は、外観の変化をすぐに起さないもの、または年月とともに落ち着いた雰囲気の出る材料の使用に努めること。
	付帯設備	(1) 屋上に設ける設備(給排水管、ダクト、受水槽、冷却塔、アンテナなど)は、外部から見えない場所に設置する、または目隠しなどにより見えないようにすること。 (2) 太陽光発電設備は、目立たない場所への配置や周囲を植栽で目隠ししたりするなど、周辺から見え難くなるように努めること。 (3) 太陽光発電設備の太陽電池モジュール(パネル)は、反射が少なく模様が目立たないものの採用を図るとともに、設置場所との色彩の調和を図ること。
	門柱・門扉 垣・柵	(1) 道路等に面する柵などの施設は、建物本体や周辺のまち並みと調和するよう形態や色彩を工夫し、圧迫感のないものとする。
植栽	(1) 敷地内の既存樹木は、極力保全し、修景に活かすよう配慮すること。 (2) 敷地内や建築物等の緑化や花による修景に努めること。	

項目		制度名/対象区域名																										
		市全域																										
建築物	色彩	<p>・建築物の壁面など外壁の基調色は、日本工業規格Z8721〔色の表示方法－三属性による表示〕において、以下のとおりとすること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 0R(≠10RP)～10R</td> <td>4.0 以下</td> <td rowspan="4">3.0 以上</td> </tr> <tr> <td>② 0YR(≠10R)～5Y</td> <td>6.0 以下</td> </tr> <tr> <td>③ ①②以外</td> <td>2.0 以下</td> </tr> <tr> <td>④ N(無彩色)</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ただし、次の場合に関しては適用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面に着色していない、または製造過程において着色していない木材、土壁、ガラス等の素材本来が持つ色彩及び見付面積の10分の1未満の範囲の色彩。 ・設置後の太陽光発電設備の太陽電池モジュール(パネル)の合計面積が1,000㎡以上となる行為のみが届出対象となる建築物の色彩。 ・当該建築物が敷地外から視認できない場合など、視認性の点から市長が特に景観上支障を及ぼさないと認める色彩。 			色相	彩度	明度	① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上	② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下	③ ①②以外	2.0 以下	④ N(無彩色)	—												
		色相	彩度	明度																								
① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上																										
② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下																											
③ ①②以外	2.0 以下																											
④ N(無彩色)	—																											
工作物	色彩	<p>・工作物の壁面など外観の基調色は、日本工業規格 Z8721〔色の表示方法－三属性による表示〕において、以下のとおりとすること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>色相</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> 工作物(1) ・工作物(2)及び工作物(3)を除く全ての工作物 </td> <td>① 0R(≠10RP)～10R</td> <td>4.0 以下</td> <td rowspan="4">3.0 以上</td> </tr> <tr> <td>② 0YR(≠10R)～5Y</td> <td>6.0 以下</td> </tr> <tr> <td>③ ①②以外</td> <td>2.0 以下</td> </tr> <tr> <td>④ N(無彩色)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> 工作物(2) ・煙突、排気塔その他これらに類する物件、電波塔、送電用鉄塔、風力発電設備その他これらに類する物件 </td> <td>① 0R(≠10RP)～5Y</td> <td>2.0 以下</td> <td rowspan="2">3.0 ~ 7.0</td> </tr> <tr> <td>② N(無彩色)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工作物(3) ・土地に自立して設置する太陽光発電設備 </td> <td colspan="3"> ・太陽電池モジュール(パネル)の色彩は黒又は濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>・ただし、次の場合に関しては適用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面に着色していない、または製造過程において着色していない木材、土壁、ガラス等の素材本来が持つ色彩。 ・当該工作物が敷地外から視認できない場合など、視認性の点から市長が特に景観上支障を及ぼさないと認める色彩 			区分	色相	彩度	明度	工作物(1) ・工作物(2)及び工作物(3)を除く全ての工作物	① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上	② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下	③ ①②以外	2.0 以下	④ N(無彩色)	—	工作物(2) ・煙突、排気塔その他これらに類する物件、電波塔、送電用鉄塔、風力発電設備その他これらに類する物件	① 0R(≠10RP)～5Y	2.0 以下	3.0 ~ 7.0	② N(無彩色)		工作物(3) ・土地に自立して設置する太陽光発電設備	・太陽電池モジュール(パネル)の色彩は黒又は濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。		
		区分	色相	彩度	明度																							
工作物(1) ・工作物(2)及び工作物(3)を除く全ての工作物	① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上																									
	② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下																										
	③ ①②以外	2.0 以下																										
	④ N(無彩色)	—																										
工作物(2) ・煙突、排気塔その他これらに類する物件、電波塔、送電用鉄塔、風力発電設備その他これらに類する物件	① 0R(≠10RP)～5Y	2.0 以下	3.0 ~ 7.0																									
	② N(無彩色)																											
工作物(3) ・土地に自立して設置する太陽光発電設備	・太陽電池モジュール(パネル)の色彩は黒又は濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。																											

12. 景観法(小山町景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名																				
		町全域																				
建築物の新築など	配置	(1) 敷地の前面道路の反対側からの富士山・金時山等への眺望の見通しを阻害しないように見通し線を確認し、これを避ける配置とする。 (2) 周辺の地形やまち並み等の景観の基調を確認し、目立った印象とならないような配置とする。 (3) 道路等公共施設に面する壁面等は後退し、修景空間や公開空地的な空間、隠蔽植栽のための空間を確保する。																				
	形態	(1) 形態は、周辺の地形やまち並み等と調和し、目立った印象とならないようにする。 (2) 屋根は、周辺の地形やまち並み等景観の基調を確認し、これと調和する形状とする。																				
	壁面デザイン	(1) 周辺景観の基調((水平・垂直基調、陰影、スケール等)を確認し、これと調和する壁面デザインとする。 (2) 単調な大壁面とならないようにする。 (3) 壁面や屋上の緑化に努める。 (4) 石材、木材等の小山町の個性を感じさせる自然素材を活用する。																				
	色彩	(1) 建築物の外観の基調色は、周辺のまち並みや建築物等と調和した色彩とする。 (2) 日本工業規格Z7821[色の表示方法－三属性による表示]において、以下のとおりとすること。																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">色相</th> <th colspan="2">彩度</th> <th rowspan="2">明度</th> </tr> <tr> <th>市街化区域</th> <th>市街化区域外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0R(10RP)～10R</td> <td>4以下</td> <td>3以下</td> <td rowspan="3">外壁2以上</td> </tr> <tr> <td>0YR(10R)～5Y</td> <td>6以下</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>その他(5Y～10RP)</td> <td>3以下</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>N(無彩色)</td> <td colspan="2">—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	色相	彩度		明度	市街化区域	市街化区域外	0R(10RP)～10R	4以下	3以下	外壁2以上	0YR(10R)～5Y	6以下	4以下	その他(5Y～10RP)	3以下	2以下	N(無彩色)	—		
色相	彩度			明度																		
	市街化区域	市街化区域外																				
0R(10RP)～10R	4以下	3以下	外壁2以上																			
0YR(10R)～5Y	6以下	4以下																				
その他(5Y～10RP)	3以下	2以下																				
N(無彩色)	—																					
		ただし、次の場合はこの限りではない。 ・木材や石材等の自然素材、レンガ、土壁、ガラス、銅等の金属材、コンクリート等の表面に着色していない素材により仕上げられている場合。 ・各壁面の見付面積の10分の1未満の範囲で、アクセントカラーとして低層部に効果的に使用される場合。 ・太陽電池モジュールで、黒、濃紺、低彩度の色彩のもの(彩度2.0以下のもの)を使用する場合。 ・鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、橋梁、防護柵等で、ダークブラウン(10YR2/1程度)を使用する場合。 ・法令や条例等において基準が定められている場合。 色数は、アクセントカラーも含めて4色以内とし、それぞれの色の対比が強くないよう配慮する。																				

項目		制度名/対象区域名
		町全域
建築物の新築など	附帯設備	<p>(1) 屋外階段は、建物本体と一体的、あるいは調和したデザインとする。</p> <p>(2) 屋上に設ける設備は、外部から見えにくくなるよう配置する、あるいは壁面の立ち上げやルーバー等により隠すようにする。</p> <p>(3) 外壁の設備配管や設備機器は、外部から見えにくくなるよう配置する、あるいは建物本体と一体的、もしくは調和したデザインとする。</p>
	面した道路に空地	(1) 前面道路等に面した壁面後退部分の空地は、歩道や広場として解放する、あるいは緑化等により修景する。
	外壁・門柱・門扉	<p>(1) 建物本体や周辺のまち並みと調和し、圧迫感のないものとする。</p> <p>(2) 透過性のあるものとする。</p>
	植栽	<p>(1) 敷地内の既存樹木は極力保全し、修景に活かす。</p> <p>(2) 敷地内のオープンスペースの緑化に努める。</p> <p>(3) 周辺植生に調和する樹種を選択する。</p> <p>(4) 敷地入り口周辺、建物までのアプローチ通路沿い等は、花壇やプランター等により演出する。</p>
	駐車場等	(1) 駐車場や駐輪場は、潤いある空間となるように、緑化や舗装デザインに配慮するとともに、必要に応じて道路等から見えにくくなるようにする。
	付属施設	<p>(1) 立体駐車場は、建物本体と一体的、あるいは調和したデザインとする。</p> <p>(2) 電気室、機械室、トイレ、ゴミ置場等は、目立たない位置に配置するとともに、建物本体や周辺景観と調和するデザインとする。</p> <p>(3) 付属施設の周囲に、目隠しや防音のための植栽等を施す。</p>
	建築物に附帯する広告物及び同敷地内の広告物	<p>(1) 広告物は、自家広告のみとする。</p> <p>(2) 屋上看板、突出看板は建築物等と一体化を図り、看板部分の面積は最小限に留める。</p> <p>(3) 広告塔等の独立看板を設置する場合は、集約化、小面積化、デザインの高質化、建物本体との調和等、周辺の景観を損なわないようにする。</p> <p>(4) 看板の地色には、高彩度色や蛍光色の使用をできるだけ避ける。</p>
工作物の新築など	立地・配置	<p>(1) 町内の主要な眺望点からの富士山・金時山等への眺望の見通しを阻害しないように見通し線を確認し、これを避ける立地とする。</p> <p>(2) 敷地の前面道路の反対側からの富士山・金時山等への眺望の見通しを阻害しないように見通し線を確認し、これを避ける配置とする。</p> <p>(3) 道路等公共施設に面する壁面等は後退し、修景空間や公開空地的な空間、隠蔽植栽のための空間を確保する。</p>

項目		制度名/対象区域名			
		町全域			
工 作 物 の 新 築 な ど	形態	(1) 形態は、周辺の地形やまち並み等と調和し、目立った印象とならないようにする。			
	色彩	(1) 工作物の外観の基調色は、周辺のまち並みや建築物等と調和した色彩とする。			
		(2) 日本工業規格Z7821〔色の表示方法－三属性による表示〕において、以下のとおりとすること。			
		色相	彩度		明度 外壁2以上 ・ 屋根5以下
			市街化区域	市街化区域外	
	0R(10RP)～10R	4以下	3以下		
	0YR(10R)～5Y	6以下	4以下		
	その他(5Y～10RP)	3以下	2以下		
	N(無彩色)	—			
	<p>ただし、次の場合はこの限りではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材や石材等の自然素材、レンガ、土壁、ガラス、銅等の金属材、コンクリート等の表面に着色していない素材により仕上げられている場合。 ・各壁面の見付面積の10分の1未満の範囲で、アクセントカラーとして低層部に効果的に使用される場合。 ・太陽電池モジュールで、黒、濃紺、低彩度の色彩のもの(彩度2.0以下のもの)を使用する場合。 ・鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、橋梁、防護柵等で、ダークブラウン(10YR2/1程度)を使用する場合。 ・法令や条例等において基準が定められている場合。 <p>色数は、アクセントカラーも含めて4色以内とし、それぞれの色の対比が強くないよう配慮する。</p>				
	面した道路に空地	(1) 前面道路等に面した後退部分の空地は、圧迫感を軽減するために植栽により修景する。			
	植栽	<p>(1) 敷地内の既存樹木は極力保全し、修景に活かす。</p> <p>(2) 敷地内のオープンスペースの緑化に努める。</p> <p>(3) 周辺植生に調和する樹種を選択する。</p>			
	工作物に附帯する広告物	<p>(1) 広告物は、自家広告のみとする。</p> <p>(2) 看板部分の面積は最小限に留める。</p> <p>(3) 看板の地色には、高彩度色や蛍光色の使用をできるだけ避ける。</p>			
	太陽光発電設備	<p>(1) 太陽電池モジュールは、黒色又は濃紺色若しくは周辺の景観と調和する低明度かつ低彩度のものを使用し、低反射で、できるだけ模様が目立たないものを使用する。</p> <p>(2) フレームは、周囲の緑地景観と調和した色彩とする(黒・茶系の色彩とする)。</p>			

13. 景観法(静岡市景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	住居系市街地景観形成ゾーン	田園・緑地景観ゾーン
建築物・工作物(擁壁、高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋等を除く)	自然資源を活かす、取り入れる	<p>(1) 緑のネットワークを意識した敷地内緑化、建物緑化を行う。</p> <p>1) 公園やオープンスペースに隣接する場合は、これらとの連続性を確保し、緑のネットワークを形成する。</p> <p>2) 隣接する敷地等が生け垣などで設え(しつらえ)られている場合は、その連続性を確保する。</p> <p>(2) 水辺や公園などに対して、オープンスペースを確保するなど、自然資源と一体的な空間の創出に努める。</p> <p>(3) 自然資源への見通しが確保された建築物の配置、規模、形態とする。</p>
	景観資源を保全する、引き立てる	<p>(1) 景観資源に隣接する場合は、次に掲げるような配慮を行い、景観資源を引き立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 緑化による修景を行う。景観資源に対して、建築設備や付属施設、屋外広告物等を近接させない。 ◆ 屋根や庇、外構の設え(しつらえ)などが協調されたデザインを取り入れる。 ◆ 屋根や外壁の色彩は、色相や彩度などを協調する。
	空の広さや水辺の開放感、後背の山並みへの見通しを確保する	<p>(1) 建築物の屋上設備や塔屋は、屋根と一体となるよう意匠や配置に工夫し、次の基準に適合させる。</p> <p>1) 通りから直接望見できない位置に配置する。</p> <p>2) ルーバーや緑化による修景などを行う。</p> <p>(2) 建築物の屋根は勾配屋根とするなど、周辺の市街地や後背の山並みと調和した形状とする。</p>

¹ 工作物:景観法(静岡市景観計画)では、次の①～⑩に示すものとする。①建築物に該当しない門、塀、垣、さくその他これらに類するもの、②擁壁その他これに類するもの、③高架水槽、冷却塔、サイロその他これらに類するもの、④煙突、排気塔その他これらに類するもの、⑤記念塔その他これに類するもの、⑥電波塔その他これに類するもの、⑦屋外タンクその他これに類するもの、⑧高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋その他これらに類するもの、⑨建築物に該当しない車庫その他これに類するもの、⑩自動販売機、⑪前各号に掲げるもののほか、良好な景観の形成を妨げるおそれがある工作物として市長が指定するもの

項目	制度名/対象区域名	
	住居系市街地景観形成ゾーン	田園・緑地景観ゾーン
建築物・工作物(擁壁、高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋等を除く)	地域環境を活かした 夜間景観を形成する	(1) 周辺への光環境を考慮し、効果的な夜間景観の演出に努める。 (2) 住宅地や田園地域などの落ち着いた環境に配慮し、光の向きや光源の使用等に工夫を行う。 (3) 光源が露出した照明は使用しない。
	地区や通りの一体性や連続性に配慮する	(1) 次に示す事項に配慮し、地区や通りが持つ空間のスケール感と調和した規模・形態・配置とする。 1) 外壁面の意匠(開口部の形状等)。 2) 地域の景観特性に応じたスカイラインの形成。 3) 道路の幅員と沿道の建物で構成される通り景観のスケール。 4) 建築物の配置 5) 通りに対する外壁面の位置、敷地内の空地の確保。
	地区の特性にあった色彩・素材とする	(1) 地域の個性が感じられる色彩や素材の活用を基本とし、次の事項に適合させる。 1) 外壁の素材は、汚れや退色に強いものとする。 2) 外壁や外構は、地域で多く使用されている素材や色彩の活用を努める。 3) 外観の色彩は、次表 ¹ のとおりとする。ただし、着色していない木材、土壁、ガラス等の材料によって仕上げられる部分の色彩又は見付面積の5分の1未満の範囲内で外観のアクセント色として着色される部分の色彩については、この限りでない。

¹ 次表; 47ページ及び48ページ「建築物の外壁」「建築物の屋根」「工作物の外観」の欄を参照のこと。

² 次表; 47ページ及び48ページ「建築物の外壁」「建築物の屋根」「工作物の外観」の欄を参照のこと。

項目	制度名/対象区域名																
	住居系市街地景観形成ゾーン	田園・緑地景観ゾーン															
建築物・工作物(擁壁、高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋等を除く)	街角の個性を演出する	(1) 主要な道路の交差点や橋詰め等では、周囲のまち並みから突出するような誘目性の高い意匠にならないよう配慮し、敷地の形状等に応じて、次のような工夫により街角の演出に努める。 1) シンボルとなる樹木等を植栽する。 2) 空地や広場を確保する。															
	ヒューマンなスケール感を大切にす	(1) 周辺のまち並みから逸脱する長大な壁面を持つ外壁は、次の方法などにより、圧迫感の軽減を図る。 1) 壁面に凹凸を付けたり、雁行(がんこう)させたりする。 2) 部材、色彩・素材などにより分節化を行う。 3) 隣接地に対して、外壁を段階的にセットバックさせる。															
	付属施設や外構は建築物と一体的なデザインとする	(1) 駐車場や駐輪場、ごみ置き場などの付属施設、外階段は、次のいずれかの基準に適合させる。 1) 建築物と一体的な意匠とするなど、目立たない工夫を施す。 2) 通りから直接望見できる場合は、緑化などにより修景する。															
	緑化によるうるおいを創出する	(1) 庭先や敷地内は、四季を感じさせる樹木や花木を植栽する。 (2) 接道部は生け垣とするなど、うるおいのある通り景観とする。 (3) 接道部に緑化に必要な擁壁等が生じる場合は、建築物の外壁や地域で多く利用されている仕上げと同等程度の素材などを使用する。															
	建築物の外壁	<table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">10R(OYR)~5Y</td> <td>8以上の場合</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>8未満の場合</td> <td>6以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">上記以外の有彩色</td> <td>8以上の場合</td> <td>1以下</td> </tr> <tr> <td>8未満の場合</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色</td> <td></td> <td>0(使用可)</td> </tr> </tbody> </table>	色相	明度	彩度	10R(OYR)~5Y	8以上の場合	4以下	8未満の場合	6以下	上記以外の有彩色	8以上の場合	1以下	8未満の場合	2以下	無彩色	
色相	明度	彩度															
10R(OYR)~5Y	8以上の場合	4以下															
	8未満の場合	6以下															
上記以外の有彩色	8以上の場合	1以下															
	8未満の場合	2以下															
無彩色		0(使用可)															

項目		制度名/対象区域名										
		住居系市街地景観形成ゾーン		田園・緑地景観ゾーン								
建築物・工作物(擁壁、高架道路、高架鉄道、橋りょう、横断歩道橋等を除く)	建築物の屋根	<table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有彩色</td> <td rowspan="2">6以下</td> <td>6以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色</td> <td>0(使用可)</td> </tr> </tbody> </table>	色相	明度	彩度	有彩色	6以下	6以下	無彩色	0(使用可)		
	色相	明度	彩度									
有彩色	6以下	6以下										
無彩色		0(使用可)										
	工作物の外観	<table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有彩色</td> <td rowspan="2">-</td> <td>6以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色</td> <td>0(使用可)</td> </tr> </tbody> </table>	色相	明度	彩度	有彩色	-	6以下	無彩色	0(使用可)		
色相	明度	彩度										
有彩色	-	6以下										
無彩色		0(使用可)										

14. 屋外広告物法(山梨県屋外広告物条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	御師住宅沿道地区、横町バイパス地区、富士見バイパス地区、富士河口湖富士線地区、新倉トンネル西側地区、船津小海線地区、富士登山道線地区、インター線地区及び白木里宮線地区を除く山梨県全域
共通基準	<p>(1)裏面、側面、脚部等の広告物を表示しない部分についても、美観風致の維持のために配慮されたものであること。</p> <p>(2)三百六十度にわたる弧を照らす灯火(以下「回転灯」という。)を使用していないこと。</p> <p>(3)蛍光、夜光等の発光又は反射を伴う塗料又は材料を使用していないこと。</p> <p>(4)第一種許可地域内にあつては、表示の内容が変化するものでないこと。</p> <p>(5)第二種許可地域内にあつては、表示の内容が変化するものでないこと。ただし、都市計画法で規定する用途地域が指定された地域(以下「用途地域」という。)内において、自家用広告物(自己の氏名、名称、住所若しくは商標又は自己の事業若しくは営業の内容を表示するための広告物等で自己の管理する住宅又は事業場の敷地内に表示し、又は設置するものをいう。以下同じ。)であつて、表示面積の合計が〇・五平方メートル(両面に表示する場合にあつては、一・〇平方メートル)以内のものを、信号機の視認の妨げにならないと知事が認める方法により表示し、又は設置する場合は、この限りでない。</p>

項目	制度名/対象区域名
	御師住宅沿道地区
共通基準	<p>(1)使用する色彩の数が三以下であること。</p> <p>(2)広告物の表示面に使用される色彩のうち、表示面積に対して占める割合が最大である色彩(以下「最大面積色」という。)の明度が二以上八以下であること。ただし、無彩色のものについては、この限りでない。</p> <p>(3)最大面積色の彩度が六(色相がR、YR又はYの場合にあつては、八)以下であること。</p> <p>(4)広告物の表示面については、周辺の風致や景観と調和したものであること。</p> <p>(5)裏面、側面、脚部等の広告物を表示しない部分についても、美観風致の維持のために配慮されたものであること。</p> <p>(6)三百六十度にわたる弧を照らす灯火(以下「回転灯」という。)を使用していないこと。</p> <p>(7)蛍光、夜光等の発光又は反射を伴う塗料又は材料を使用していないこと。</p> <p>(8)照明が点滅しないこと。</p> <p>(9)表示の内容が変化するものでないこと。</p>

項目	制度名/対象区域名
共通基準	<p>(1)使用する色彩の数が三以下であること。</p> <p>(2)最大面積色の明度が二以上八以下であること。ただし、無彩色のものについては、この限りでない。</p> <p>(3)最大面積色の彩度が六(色相が R、YR 又は Y の場合にあつては、八)以下であること。</p> <p>(4)広告物の表示面については、周辺の風致や景観と調和したものであること。</p> <p>(5)裏面、側面、脚部等の広告物を表示しない部分についても、美観風致の維持のために配慮されたものであること。</p> <p>(6)回転灯を使用していないこと。</p> <p>(7)蛍光、夜光等の発光又は反射を伴う塗料又は材料を使用していないこと。</p> <p>(8)照明が点滅しないこと。</p> <p>(9)表示の内容が変化するものでないこと。</p>

項目	制度名/対象区域名
共通基準	<p>(1)使用する色彩の数が三以下であること。</p> <p>(2)最大面積色の明度が二以上八以下であること。ただし、無彩色のものについては、この限りでない。</p> <p>(3)最大面積色の彩度が六(色相が R、YR 又は Y の場合にあつては、八)以下であること。</p> <p>(4)広告物の表示面については、周辺の風致や景観と調和したものであること。</p> <p>(5)裏面、側面、脚部等の広告物を表示しない部分についても、美観風致の維持のために配慮されたものであること。</p> <p>(6)回転灯を使用していないこと。</p> <p>(7)蛍光、夜光等の発光又は反射を伴う塗料又は材料を使用していないこと。</p> <p>(8)表示の内容が変化するものでないこと。ただし、この告示の適用の日(以下「適用日」という。)において現に第二種許可地域に該当する区域で、かつ、都市計画法(昭和四十三年法律第百号)で規定する用途地域に該当する区域内において、建築物を利用する自家用広告物であつて、表示面積の合計が〇・五平方メートル(両面に表示する場合にあつては、一・〇平方メートル)以内のものを、信号機の視認の妨げにならないと知事が認める方法により表示し、又は設置する場合は、この限りでない。</p>

15. 屋外広告物法(静岡県屋外広告物条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	静岡市、富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市を除く静岡県全域
共通基準	<p>(1) 蛍光塗料は、保安上必要なものを除き使用しないものであること。</p> <p>(2) 著しく汚染し、退色し、又は塗料のはく離したものでないものであること。</p> <p>(3) 裏面、側面及び脚部は、美観を損なわないものであること。</p> <p>(4) 電飾設備を有するものにあつては、昼間においても美観を損なわないものであること。</p> <p>(5) 構造は、地震、風雨等により破損し、落下し、又は倒壊するおそれのないものであること。</p> <p>(6) 交通の妨害となるような位置に表示し、又は設置しないものであること。</p> <p>(7) 信号機、道路標識その他の公共の用に供する工作物の効用を妨げるようなものでないこと。</p>

16. 屋外広告物法(静岡市屋外広告物条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	静岡市全域
共通基準	<p>(1) 蛍光塗料は、保安上必要なものを除き使用しないものであること。</p> <p>(2) 著しく汚染し、退色し、又は塗料のはく離したものでないものであること。</p> <p>(3) 裏面、側面及び脚部は、美観を損なわないものであること。</p> <p>(4) 電飾設備を有するものにあつては、昼間においても美観を損なわないものであること。</p> <p>(5) 構造は、地震、風雨等により破損し、落下し、又は倒壊するおそれのないものであること。</p> <p>(6) 交通の妨害となるような位置に表示し、又は設置しないものであること。</p> <p>(7) 信号機、道路標識その他の公共の用に供する工作物の効用を妨げるようなものでないこと。</p>

17. 屋外広告物法(富士宮市屋外広告物条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	富士宮市全域
共通基準	<p>(1)蛍光塗料は、保安上必要なものを除き使用しないものであること。</p> <p>(2)著しく汚染し、退色し、又は塗料の剥離したものでないものであること。</p> <p>(3)裏面、側面及び脚部は、美観を損なわないものであること。</p> <p>(4)電飾設備を有するものにあつては、昼間においても美観を損なわないものであること。</p> <p>(5)構造は、地震、風雨等により破損し、落下し、又は倒壊するおそれのないものであること。</p> <p>(6)交通の妨害となるような位置に表示し、又は設置しないものであること。</p> <p>(7)信号機、道路標識その他の公共の用に供する工作物の効用を妨げるようなものでないこと。</p> <p>(8)壁面広告物の強調色は建築物の見付面積の10分の1以下(屋根部分を含む。)とし、必要最小限の使用を基本とすること。</p> <p>(9)点滅する光源を持つ電飾広告物の高さは、5メートル以下とすること。</p> <p>(10)広告物の地色に蛍光色を使用しないこと。</p> <p>(11)地盤面からの高さが10メートルを超える広告物の地色は、富士宮市景観計画に定める景観形成基準の最低基準色(外壁基調色)の範囲内とすること。</p> <p>(12)景観重要公共施設の道路境界から10メートル以内及び風致地区内に建てられる屋外広告物の脚柱はダークブラウンにすること。</p>

18. 屋外広告物法(富士市屋外広告物条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	富士市全域
共通基準	<p>(1) 蛍光塗料は、保安上必要なものを除き使用しないものであること。</p> <p>(2) 著しく汚染し、退色し、又は塗料の剥離していないものであること。</p> <p>(3) 裏面、側面及び脚部は、美観を損なわないものであること。</p> <p>(4) 電飾設備を有するものにあつては、昼間においても美観を損なわないものであること。</p> <p>(5) 構造は、地震、風雨等により破損し、落下し、又は倒壊するおそれのないものであること。</p> <p>(6) 交通の妨害となるような位置に表示し、又は設置しないものであること。</p> <p>(7) 信号機、道路標識その他の公共の用に供する工作物の効用を妨げるようなものでないこと。</p> <p>(8) 高速自動車国道第一東海自動車道及び高速自動車国道第二東海自動車道横浜名古屋線(トンネルの区間を除く。)から 200メートル以内の区域にあつては、点滅及び回転するもの並びに交通標識等と混同しやすいものでないこと。</p>

19. 屋外広告物法(御殿場市総合景観条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	御殿場市全域
共通基準	<p>(1) 蛍光塗料は、保安上必要なものを除き使用しないものであること。</p> <p>(2) 著しく汚染し、退色し、又は塗料のはく離したものでないものであること。</p> <p>(3) 裏面、側面及び脚部は、美観を損なわないものであること。</p> <p>(4) 構造は、地震、風雨等により破損し、落下し、又は倒壊するおそれのないものであること。</p> <p>(5) 交通の妨害となるような位置に表示し、又は設置しないものであること。</p> <p>(6) 信号機、道路標識その他の公共の用に供する工作物の効用を妨げるようなものでないこと。</p>

20. 屋外広告物法(裾野市屋外広告物条例)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	裾野市全域
共通基準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 蛍光塗料は、保安上必要なものを除き使用しないものであること。 (2) 著しく汚染し、退色し、又は塗料のはく離したものでないものであること。 (3) 裏面、側面及び脚部は、美観を損なわないものであること。 (4) 電飾設備を有するものにあつては、昼間においても美観を損なわないものであること。 (5) 構造は、地震、風雨等により破損し、落下し、又は倒壊するおそれのないものであること。 (6) 交通の妨害となるような位置に表示し、又は設置しないものであること。 (7) 信号機、道路標識その他の公共の用に供する工作物の効用を妨げるようなものでないこと。

21. 忍野村風致地区条例(都市計画法に基づく)に定める許可基準

項目		制度名/対象区域名
		風致地区
建築物等の新築	仮設の建築物等	(1) 当該建築物等の構造が、容易に移転し、又は除却することができるものであること。 (2) 当該建築物等の規模及び形態が新築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。
	地下に設ける建築物等	(1) 当該建築物等の位置及び規模が新築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致の維持に支障を及ぼすおそれが少ないこと。
	その他の建築物等	(1) 当該建築物の建ぺい率が10分の4以下であること。 (2) 当該建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地の境界線までの距離が、道路に接する部分にあつては2メートル、その他の部分にあつては1メートル以上であること。 (3) 当該建築物の高さが10メートル以下であること。 (4) 当該建築物の位置、規模、形態及び意匠が、工作物にあつては当該工作物の位置、規模、形態及び意匠が、新築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。 (5) 敷地が造成された宅地又は埋立て若しくは干拓が行われた土地であるときは、木竹が 保全され、又は適切な植栽が行われる土地の面積の当該敷地の面積に対する割合が10パーセント以上であること。
建築物等の改築		(1) 改築後の建築物の高さが改築前の建築物の高さをこえないこと。 (2) 改築後の建築物の形態及び意匠が、工作物にあつては、改築後の工作物の規模、形態及び意匠が、改築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。
建築物等の増築	仮設の建築物等	(1) 当該増築部分の構造が容易に移転し、又は除却することができるものであること。 (2) 増築後の建築物等の規模及び形態が、増築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。
	地下に設ける建築物等	(1) 増築後の当該建築物等の位置及び規模が増築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致の維持に支障を及ぼすおそれが少ないこと。

¹ 建築物等;都市計画法(忍野村風致地区条例)では、建築物と次の①～⑫に示す工作物とする。①煙突、排気塔、②鉄筋コンクリート造りの柱、金属製の柱、③記念塔、装飾塔、物見塔(屋外広告物は除く)、④高架水槽、冷却塔、⑤垣、さく、塀、⑥ウォーターシュート、コースター、メリーゴーラウンド、観覧車、飛行塔、⑦コンクリートプラント、アスファルトプラント、クラッシャープラント、⑧自動車車庫の用に供する立体的施設、⑨石油、ガス、液化石油ガス、穀物、飼料等を貯蔵し、又は処理する施設、⑩汚水処理施設、汚物処理施設、ごみ処理施設、⑪電気供給のための電線路、有線電気通信のための線路、空中線系(その支持物を含む。)、⑫彫像、記念碑その他これらに類するもの

項目		制度名/対象区域名
		風致地区
建築物等の増築	その他の建築物等	<p>(1) 増築後の建築物の建ぺい率が10分の4以下であること。</p> <p>(2) 当該増築部分の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地の境界線までの距離が、道路に接する部分にあつては2メートル、その他の部分にあつては1メートル以上であること。</p> <p>(3) 当該増築後の建築物の高さが10メートル以下であること。</p> <p>(4) 当該増築後の建築物の形態及び意匠が、増築の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。</p>
	建築物等の移転	<p>(1) 建築物にあつては、移転後の建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地の境界線までの距離が、道路に接する部分にあつては2メートル、その他の部分にあつては1メートル以上であること。</p> <p>(2) 移転後の工作物の位置が移転の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。</p>
	宅地の造成等	<p>(1) 木竹が保全され、又は適切な植栽が行われる土地の面積の宅地の造成等に係る土地の面積に対する割合が、10パーセント以上であること。</p> <p>(2) 宅地の造成等に係る土地及びその周辺の土地の区域における木竹の生育に支障を及ぼすおそれが少ないこと。</p> <p>(3) 1ヘクタールを超える宅地の造成等にあつては、次に掲げる行為を伴わないこと。</p> <p>1) 高さが3メートルを超えるのりを生ずる切土又は盛土。ただし、土地の状況により支障がないと認められる場合においては、この限りでない。</p> <p>2) 都市の風致の維持上特に重要な森林で、あらかじめ知事が指定したものの伐採。</p> <p>(4) 1ヘクタール以下の宅地の造成等で高さが3メートルを超えるのりを生ずる切土又は盛土を伴うものにあつては、適切な植栽を行うものであること等により当該切土又は盛土により生ずるのりが当該土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和とならないものであること。</p>
	木竹の伐採	<p>(1) 伐採の行なわれる土地及びその周辺の土地の区域における風致をそこなうおそれが少ないこと。</p> <p>(2) 建築物その他の工作物の新築、改築、増築又は移転、宅地の造成、土地の開墾その他の土地の形質の変更するために必要な最小限度の木竹の伐採</p> <p>(3) 森林の択伐</p> <p>(4) 伐採後の成林が確実に認められる森林の皆伐で、伐採区域の面積が1ヘクタール以下のもの</p>
	土石類の採取	<p>(1) 採取の方法が、露天掘りでなく(必要な埋めもどし若しくは植栽をすること等により風致の維持に著しい支障を及ぼさない場合を除く。)、かつ、採取を行なう土地及びその周辺の土地の区域における風致の維持に支障を及ぼすおそれが少ないこと。</p>
	建築物等の色彩の変更	<p>(1) 当該変更後の色彩が当該変更の行われる建築物等の存する土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和でないこと。</p>

項目	制度名/対象区域名
	風致地区
水面の埋立て 又は干拓	<p>(1)次に該当するものであること。</p> <p>1)適切な植栽を行うものであること等により行為後の地貌が当該土地及びその周辺の土地の区域における風致と著しく不調和とならないものであること。</p> <p>2)当該行為に係る土地及びその周辺の土地の区域における木竹の生育に支障を及ぼすおそれが少ないこと。</p>
土石等の堆積等	<p>(1)堆積を行う土地及びその周辺の土地の区域における風致の維持に支障を及ぼすおそれが少ないこと。</p>

22. 都市計画法(静岡市)に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名	
	第一種低層住居専用地域 ¹	市街化調整区域 ²
建ぺい率・ 容積率・	(1)容積率 ³ は10分の8を以下とする。 (2)建ぺい率 ⁴ は10分の5を越えない数値とする。	(1)容積率は10分の20以下とする。 (2)建ぺい率は10分の6を越えない数値とする。
外壁の後退距離の 建築物の高さの 限度・	(1)建築物の高さは、10メートルとする。	—
開発行為	(1) 予定建築物等の用途が定める用途の制限に適合していること。 (2) 主として、自己の居住の用に供する住宅の建築の用に供する目的で行う開発行為以外の開発行為にあつては、道路、公園、広場その他の公共の用に供する空地が、次に掲げる事項を勘案して、環境の保全上、災害の防止上、通行の安全上又は事業活動の効率上支障がないような規模及び構造で適当に配置され、かつ、開発区域内の主要な道路が、開発区域外の相当規模の道路に接続するように設計が定められていること。 1) 開発区域の規模、形状及び周辺の状態。 2) 開発区域内の土地の地形及び地盤の性質。 3) 予定建築物等の用途。 4) 予定建築物等の敷地の規模及び配置	(1) 公益上必要な建築物又はこれらの者の日常生活のため必要な物品の販売、加工若しくは修理その他の業務を営む店舗、事業場その他これらに類する建築物の建築の用に供する目的で行う開発行為。 (2) 市街化調整区域内に存する鉱物資源、観光資源その他の資源の有効な利用上必要な建築物又は第一種特定工作物 ⁵ の建築又は建設の用に供する目的で行う開発行為。 (3) 温度、湿度、空気等について特別の条件を必要とする事業の用に供する建築物又は第一種特定工作物で、当該特別の条件を必要とするため市街化区域 ⁶ 内において建築し、又は建設することが困難なものの建築又は建設の用に供する目的で行う開発行為。

¹ 第一種低層住居専用地域;低層住宅に係る良好な住居の環境を保護するため定める地域。

² 市街化調整区域;市街化を抑制すべき区域。

³ 容積率;建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合。

⁴ 建ぺい率;建築物の建築面積(同一敷地内に二以上の建築物がある場合においては、その建築面積の合計)の敷地面積に対する割合。

⁵ 第一種特定工作物;コンクリートプラントその他周辺の地域の環境の悪化をもたらすおそれがある工作物で政令で定めるもの。

⁶ 市街化区域;すでに市街地を形成している区域及びおおむね十年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

項目	制度名/対象区域名	
	第一種低層住居専用地域 ¹	市街化調整区域 ²
	<p>(1) 建築又は建設の用に供する目的で行う開発行為以外の開発行為にあつては、開発区域内に災害危険区域¹、地すべり防止区域²、土砂災害特別警戒区域³、その他開発行為を行うのに適当でない区域内の土地を含まないこと。</p> <p>(2) 開発区域及びその周辺の地域における環境を保存するため、開発区域における植物の生育の確保上必要な樹木の保存、表土の保全その他の必要な措置が講ぜられるように設計が定められていること。</p> <p>(3) 開発区域及びその周辺の地域における環境を保全するため、騒音、振動等による環境の悪化の防止上必要な緑地帯その他の緩衝帯が配置されるように設計が定められていること。</p> <p>(4) 当該開発行為が道路、鉄道等による輸送の便等からみて支障がないと認められること。</p>	

¹ 災害危険区域;津波、高潮、出水等による危険の著しい区域。

² 地すべり防止区域;地すべりしている区域又は地すべりするおそれのきわめて大きい区域。

³ 土砂災害特別警戒区域;急傾斜地の崩壊等が発生した場合には建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、一定の開発行為の制限及び居室を有する建築物の構造の規制をすべき土地の区域。

23. 都市計画法(富士宮市)に定める高度地区

項目	制度名/対象区域名	
	岳南広域都市計画高度地区	
建築物の高さの最高限度	高度地区(第1種)	建築物の高さ(地盤面からの高さによる。以下同じ。)は、10メートル(階段室、昇降機塔、装飾塔、物見塔、屋窓その他これらに類する建築物の屋上部分(以下「塔屋等」という。)を含めたものとする。以下同じ。)以下とする。
	高度地区(第2種)	建築物の高さは、13メートル以下とする。
	高度地区(第3種)	建築物の高さは、15メートル以下とする。
	高度地区(第4種)	建築物の高さは、20メートル以下とする。
	<p>(1)適用の除外</p> <p>次のいずれかに該当する建築物については、本規定による建築物の高さの最高限度は適用しない。</p> <p>1)本規定の適用の際、現に存する建築物又は現に建築、修繕若しくは模様替えの工事中で当該規定に適合しない部分を有する建築物(以下「既存不適格建築物」という。)</p> <p>2)既存不適格建築物について、本規定による建築物の高さの最高限度の範囲内で増築を行うもの。</p> <p>3)既存不適格建築物について、現状の建築物の高さを増加させない範囲で大規模の修繕又は大規模の模様替えを行うもの。</p> <p>(2)許可による特例</p> <p>次のいずれかに該当する建築物で、市長が建築審査会の同意を得て許可したものは、その許可の範囲内において、本規定による建築物の高さの最高限度を超えることができる。</p> <p>1)公共、公益上必要な施設で、その機能上又は構造上やむを得ず、かつ、当該地域の景観及び環境に配慮し得るもの。</p> <p>2)既存不適格建築物で建築物の耐震改修の促進に関する法律(平成7年法律第123条)第17条第3項の認定を受け、当該認定に基づく耐震改修を行うもの。</p> <p>3)塔屋等の部分を除いた高さが、本規定による建築物の高さの最高限度の範囲内の建築物において、用途上、機能上及び構造上やむを得ず、設置の必要不可欠な塔屋等を含むもの。この場合における塔屋等の規模は、屋上部分の水平投影面積の合計が当該建築物の建築面積の8分の1以内、かつその部分の高さが3メートル以下とする。</p>	

24. 海岸法に定める許可基準

項目	制度名/対象区域名
	海岸保全区域
土石の採取、施設の掘削・盛土・切土 土地の掘削・盛土・切土	(1) 申請の内容が海岸の保全に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められない場合。

25. 自主条例(富士吉田市富士山世界遺産条例)に定める基準

項目	制度名/対象区域名	
	自然公園法区域	都市計画法区域
建築物等の高さ	(1) 自然公園法における高さとする。	(1) 国道139号(通称上吉田本町通り)から間の川(御師の前の川)までは13メートル以下、市道上吉田東裏通り線、市道上吉田東通り2号線及び市道上吉田西裏通り線から間の川までは18メートル以下とする。

¹ **建築物等**; 富士吉田市富士山世界文化遺産候補条例では、建築物と次の①～⑫に示す工作物とする。①煙突、排気塔、②鉄筋コンクリート造りの柱、金属製の柱、③記念塔、装飾塔、物見塔(屋外広告物は除く)、④高架水槽、冷却塔、⑤垣、さく、塀、⑥ウォーターシュート、コースター、メリーゴーラウンド、観覧車、飛行塔、⑦コンクリートプラント、アスファルトプラント、クラッシャープラント、⑧自動車車庫の用に供する立体的施設、⑨石油、ガス、液化石油ガス、穀物、飼料等を貯蔵し、又は処理する施設、⑩污水处理施設、汚物処理施設、ごみ処理施設、⑪電気供給のための電線路、有線電気通信のための線路、空中線系(その支持物を含む。)、⑫彫像、記念碑その他これらに類するもの

26. 自主条例(富士宮市富士山景観等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例)に定める基準

項目	制度名/対象区域名	
	抑制区域	その他区域
対象設備	(1) 太陽電池モジュールの総面積が 1,000 平方メートルを超える太陽光発電設備 (2) 高さが10メートルを超える風力発電設備	
指定	(1) 地域を象徴する優れた景観として、良好な状態が保たれていること。 (2) 豊かな自然環境が保たれ、学術上必要な自然環境を有していること。 (3) 歴史的又は郷土的な特色を有していること。	
届出及び同意	(1) 市内において事業を施行するときは、事業に着手しようとする日の 60 日前までに、市長に届け出なければならない。 (2) 市内において事業を施工、又は事業を変更しようとするときは、市長の同意を得なければならない。	
同意の制限	(1) 事業区域の全部又は一部が抑制区域内に位置するときは同意しない。 (2) 太陽電池モジュールの総面積が 12,000 平方メートル以下で、抑制区域内の規則で定める区域にあっては、その限りではないが、次に掲げる事項を行わなければならない。 ・自治会に対して説明会を開催すること。 ・近隣関係者に対して説明を行うこと。	
勧告	(1) 市長は、次に掲げる事項に該当する者に対し、期限を定めて必要な措置を講ずるよう勧告することができる。 ・届出をしない、又は虚偽の届出をした者 ・同意を得ずに事業に着手した者 ・事業者に対し報告若しくは資料の提出を求めたにも関わらず、報告若しくは資料の提出をせず、若しくは虚偽の報告若しくは資料の提出をし、又は立入調査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、質問に対して答弁せず、若しくは虚偽の答弁をした者 ・指導又は助言に正当な理由がなく従わなかった者	
公表	(1) 市長は、勧告を受けた事業者が、正当な理由なく勧告に従わないときは、当該勧告に従わない事業者の氏名及び住所並びに当該勧告の内容を公表することができる。	

27. 土地利用事業指導要綱(御殿場市)に定める基準

項目	制度名/対象区域名
	御殿場市全域
環境・景観一般	<p>(1) 廃棄物の処理については、再生利用の徹底等により、ごみの発生を極力抑制し、資源循環型社会の構築に努めること。</p> <p>(2) 建築物その他構築物の位置、規模、構造、高さ及び色彩は、周囲の自然環境に調和したものであり、かつ、富士山の眺望に配慮されていること。また、植栽についても同様とすること。</p> <p>(3) 自然環境の保全のため、自然破壊の防止、植生の回復等に配慮した計画であること。この場合において、施行区域内に良好な自然環境の存する土地がある場合には、当該土地について保全措置が講じられていること。</p> <p>(4) 都市計画法第5条第1項に規定する都市計画区域の区域外又は同法第7条第3項に規定する市街化調整区域内の建築物の高さは、地盤面から15メートル以下とし、屋根は傾斜屋根であること。ただし、近隣の状況や建築物の配置、形状、規模、色彩、用途等を考慮して、風致景観に支障がないと判断される場合は、この限りでない。</p>
施設関係(環境・景観等と関連があるもの)	<p>(1) 施設整備については、あらゆる年齢・性別・障害・体格の度合いに応じ、だれもが利用しやすい施設整備を図るため、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、環境整備に積極的に努めること。</p> <p>(2) 施行区域の外縁部には、施行区域面積に対し、原則として緑地が確保され、高木樹種が植栽されるとともに、緑地の区域を明確にするため、区域界には縁石又は境界杭を打設すること。ただし、住宅地(常時使用する独立住宅用のもの)の分譲事業、温泉、地下水、土石採取等の土地利用事業については、別途協議すること。</p> <p>(3) 施行区域周辺の状況により必要と認められる場合は、隣地との境界部に緩衝緑地帯等が設置されること。</p> <p>(4) 事業に伴い必要となる自動車駐車場が、区域内に有効に設置されているとともに、必要と認められる場合は、二輪車駐車場も設置されていること。ただし、施行区域が商業地域、近隣商業地域で、近隣に自動車駐車場が有効に配置されていると認められる場合は、この限りでない。</p> <p>(5) 市街化調整区域の土地利用事業において、建築物等を設計する場合は、都市計画法の規定により宅地の区域として認められた範囲内に、この要綱に定める基準による駐車場、緑地等を設けること。ただし、既存の敷地区域外に駐車場、緑地等を設けることが合理的と判断され、かつ建築確認申請担当課との協議を経た場合は、この限りでない。また、市街化区域の土地利用事業についても、原則として施行区域内にこの要綱に規定する基準による駐車場、緑地等を設けること。</p>
道路等関係	<p>(1) 工事による土砂の運搬、流出等により、道路等公共施設や周辺地域を汚さないよう措置が講じられていること。</p> <p>(2) 施行区域内に新設する道路及び交通安全施設(道路附属施設)については、道路管理者等と協議すること。</p> <p>(3) 道路等の法面は、地質等を考慮した安全な構造とし、周囲の景観と調和していること。</p>

28. 土地利用事業指導要綱(裾野市)に定める基準

項目	制度名/対象区域名
	裾野市全域
森林	<p>(1) 保安林及び保安施設地区への土地利用事業は、原則として認めないものとする。</p> <p>(2) 林道整備等の林業公共投資の受益地については、原則として土地利用事業の施行は認めない。</p> <p>(3) 施行区域の森林を転用した場合の残置森林については、適切な森林施業を行うこと。</p>
産業廃棄物処理施設の凍結	<p>(1) 産業廃棄物処理施設の土地利用事業については、原則として当分の間認めないものとする。ただし、次に掲げる施設に於いて設置区域及びその周辺地域における生活環境並びに自然環境を保全し、災害及び公害を防止するための万全な計画が確立されているものについてはこの限りではない。</p> <p>1) 建設業に係る再生資源の利用の促進に関する法律(リサイクル法)に基づく建設工事に伴う副産物の中のコンクリート塊やアスファルト塊の再資源化の中間処理施設であるもの。</p> <p>2) 産業廃棄物排出事業者処理計画を策定する本市内の製造事業者が行う自己の工場内の製造工程中に発生する産業廃棄物をその工場内で自己処理する施設であること。ただし、遮断型施設を除く。なお、静岡県産業廃棄物最終処理の立地に関する基準及び静岡県産業廃棄物最終処分場の構造等に関する基準に適合する施設であること。</p>

29. 土地利用事業指導要綱(小山町)に定める基準

項目	制度名/対象区域名
	小山町全域
森林	<p>(1) 保安林及び保安施設地区への土地利用事業は、原則として認めないものとする。</p> <p>(2) 林道整備等の林業公共投資の受益地については、原則として土地利用事業の施行は認めない。</p> <p>(3) 施行区域内の森林を転用する場合における施行区域内の森林面積に対する残置し、若しくは造成する森林又は緑地の面積の割合は、分譲地20%以上、マンション(市街化区域内のものを除く)等50%以上、分譲別荘等60%以上、工場、研究・研修施設等25%以上、スポーツ・レクリエーション施設、保養所等の複合的施設50%以上、墓園等50%以上とする。</p> <p>(4) 保安林の境界から原則として20メートル以内の区域は、造成区域から除外すること。</p>
防災施設	<p>(1) 造成工事によって生ずる流出土砂の防止施設は、砂防堰堤を設置するものとするが、地形、地質等により砂防堰堤を設置できない場合は、沈砂池等を設置するものとする。</p> <p>(2) 事業は、防災工事を優先すること。</p> <p>(3) 工事中は、仮設調整池、沈砂池等を設置し、雨水及び土砂の区域外流出防止措置をとること。</p>
文化財	<p>(1) 事業計画の策定にあたり、施行区域内における文化財の有無を町教育委員会で確認し、文化財が所在する場合は、町教育委員会と協議し指示を受け対処すること。</p>

第2 保全管理区域における基準等

1. 景観法(富士吉田市景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更 建築物の新築・増築、改築若しくは移転、 配置	(1) 富士山や周辺の山々の眺望を阻害しないよう、建築物はできるだけ目立たないよう配置に留意する。	(1) 富士山や周辺の山々の眺望を阻害しないよう、建築物はできるだけ目立たないよう配置に留意する。	(1) 富士山や周辺の山々の眺望を阻害しないよう、建築物はできるだけ目立たないよう配置に留意する。
	(2) 敷地の許す範囲内で、道路・隣地境界線からできるだけ後退し、道路に面した敷地の境界部の緑化を図り、緑豊かな「道通り」景観の形成に努める。	(2) 敷地の許す範囲内で、道路・隣地境界線からできるだけ後退し、道路に面した敷地の境界部の緑化を図り、緑豊かな「道通り」景観の形成に努める。	(2) 敷地の許す範囲内で、道路の境界線から5m以上後退するものとし、道路に面した敷地の境界部の緑化を図り、緑豊かな景観の形成に努める。
	(3) 周辺の街並みとの連続性や調和に配慮した配置とする。	(3) 周辺の街並みとの連続性や調和に配慮した配置とする。	(3) 周辺の街並みとの連続性や調和に配慮した配置とする。
	(4) 既存の地形や敷地の樹木等の保全・活用に努め、敷地内の緑化に配慮し、調和のとれた豊かな街並み景観の形成に努める。	(4) 既存の地形や敷地の樹木等の保全・活用に努め、敷地内の緑化に配慮し、調和のとれた豊かな街並み景観の形成に努める。	(4) 敷地内に大径木や良好な樹林、樹木又は河川、水辺等がある場合や山並みへの良好な眺望が得られる場合には、これらを活かせる配置とする。
	(5) 敷地の角地は、シンボルツリーの設置やオープンスペースの確保など、ゆとりある「まちかど」景観の形成に努めること。		

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
外観 規模	<p>(1) 周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した規模、デザインに努める。</p> <p>(2) 高さは極力抑え、富士山や山々の眺望、周辺の自然環境、田園景観との調和に努める。なお、国道139号金鳥居交差点から上宿交差点沿線の道路界から30mの範囲及び国道138号上宿交差点から浅間神社東交差点沿線の道路界から50mの範囲にあつては、原則13m以下¹とする。また、市道上吉田西裏通り線上宿西交差点から国道137号までの東側沿線の道路界から上記範囲までと市道上吉田東裏通り線及び市道上吉田東裏通り2号線の市道赤坂線交差部から国道138号までの西側沿線の道路界から上記範囲までは、原則18m以下¹とする。</p> <p>(3) 周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模とし、建築物等と敷地のバランスに配慮する。</p>	<p>(1) 国立公園区域内については、建築物等の高さについては富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針に定めるところによるものとする。</p> <p>(2) 周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した規模、デザインに努める。</p> <p>(3) 高さは極力抑え、富士山や山々の眺望、周辺の自然環境、田園景観との調和に努める。</p> <p>(4) 周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模とし、建築物等と敷地のバランスに配慮する。</p>	<p>(1) 国立公園区域内については、建築物等の高さについては富士箱根伊豆国立公園普通地域内建築物設置に関する指針に定めるところによるものとする。</p> <p>(2) 周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した規模、デザインに努める。</p> <p>(3) 高さは極力抑え、周辺の樹林を超えないようにする。</p> <p>(4) 周辺の山々への眺望を出来るだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない。</p>

¹ 高さの算定は、建築基準法の例による。

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
形態、意匠	<p>(1) 周辺の建築物等との連続性に配慮するとともに、自然と調和した形態及び意匠となるよう工夫する。</p> <p>(2) 景観形成重点地区及びその候補地は、周辺の歴史的景観等に配慮し、これらと調和するような形態・意匠、色彩及び材料を工夫する。</p> <p>(3) 屋根の形状は、周囲の景観との連続性に配慮し、可能な限り勾配屋根とするよう努める。</p> <p>(4) 外壁又は屋上に設ける設備等は、露出しないようにし、できるだけ突出感や雑然とした感じを与えない意匠とする。</p> <p>(5) 屋外階段、ベランダなどは、建物本体と調和するよう配慮する。</p>		<p>(1) 周辺の山々の背景となる山並みのスカイライン、防風林等の樹林、周囲の建築物等の形態との調和に努める。</p> <p>(2) 屋根の形状は原則として勾配屋根で適度な軒の出を有するものとし、勾配は背景の山並みや周辺の建築物等との調和に努める。</p> <p>(3) 屋上の設備は外部から見えにくいよう壁面、ルーバーで覆う等の工夫をする。</p> <p>(4) 屋外階段、ベランダ、配管類等の付帯設備は露出させないような工夫や、建築物本体や周辺景観との調和を図る。</p> <p>(5) 周辺の基調となる建築物、工作物に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫をし、周辺との調和を図る。</p>

項目	制度名/対象区域名																																																																				
	市街地・田園集落景観形成地域		里地里山・富士山麓景観形成地域		山並み景観形成地域																																																																
色彩等	<p>(1) 建築物の基調色¹並びに建築物の屋根に使用する色彩は別表のとおりとする。ただし、木材、レンガ、土壁、漆喰、ガラスなど表面に着色を施していない素材色は、この限りでない。</p> <p>(2) 使用する色数は出来るだけ少なくなるよう努める。</p> <p>別表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">色相</th> <th colspan="4">市街地・田園集落景観形成地域</th> <th colspan="4">里地里山・富士山麓景観形成地域 山並み景観形成地域</th> </tr> <tr> <th colspan="2">外壁・工作物</th> <th colspan="2">屋根</th> <th colspan="2">外壁・工作物</th> <th colspan="2">屋根</th> </tr> <tr> <th>明度</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> <th>彩度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10R<色相≤5Y</td> <td></td> <td>6以下</td> <td></td> <td>6以下</td> <td></td> <td>4以下</td> <td></td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>10RP<色相≤10R 又は 5Y<色相≤10Y</td> <td></td> <td>3以下</td> <td>7以下</td> <td>3以下</td> <td>3以上 8以下</td> <td>2以下</td> <td>7以下</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>10Y<色相≤10PR</td> <td></td> <td>2以下</td> <td></td> <td>2以下</td> <td></td> <td>1以下</td> <td></td> <td>1以下</td> </tr> <tr> <td>無彩色(N)</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>								色相	市街地・田園集落景観形成地域				里地里山・富士山麓景観形成地域 山並み景観形成地域				外壁・工作物		屋根		外壁・工作物		屋根		明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	10R<色相≤5Y		6以下		6以下		4以下		4以下	10RP<色相≤10R 又は 5Y<色相≤10Y		3以下	7以下	3以下	3以上 8以下	2以下	7以下	2以下	10Y<色相≤10PR		2以下		2以下		1以下		1以下	無彩色(N)		-		-		-		-
	色相	市街地・田園集落景観形成地域				里地里山・富士山麓景観形成地域 山並み景観形成地域																																																															
		外壁・工作物		屋根		外壁・工作物		屋根																																																													
明度		彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度																																																													
10R<色相≤5Y		6以下		6以下		4以下		4以下																																																													
10RP<色相≤10R 又は 5Y<色相≤10Y		3以下	7以下	3以下	3以上 8以下	2以下	7以下	2以下																																																													
10Y<色相≤10PR		2以下		2以下		1以下		1以下																																																													
無彩色(N)		-		-		-		-																																																													
材料	<p>(1) 外観及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料をできるだけ避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるものとする。</p> <p>(2) 鏡面等の反射光の強い素材は極力用いないように努める。</p>		<p>(1) 外観及び外構には、自然景観や周辺景観と違和感のあるような材料をできるだけ避け、地域特有の材料や天然の材料をできるだけ用いるものとする。</p> <p>(2) 周辺景観と調和し、耐久性、耐候性に優れた材料を使用する。</p> <p>(3) 鏡面等の反射光の強い素材は極力用いないように努める。</p>																																																																		
屋外照明	<p>(1) 商業看板等の照明、ネオンサインなどは、過度な光量、けばけばしい色合いとならないよう配慮する。</p> <p>(2) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に拡散しないよう配慮する。</p>		<p>(1) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度な光量、過剰な電飾を避け、光が不必要に拡散しないよう配慮する。</p> <p>(2) 光源で動きのあるものは、原則として避ける。</p>																																																																		

¹ 基調色：基調色外観の面積のうち最も大きな面積の色彩をいう。全体の3分の2程度を目安とする。

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
緑化	<p>(1) 敷地内は極力緑化に努めるとともに、道路に面する部分(前庭)には特に配慮する。</p> <p>(2) 既存の樹木は、可能な限り保存若しくは移植し、修景に活かす。</p> <p>(3) 使用する樹種は、周辺の樹林や緑地等、又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするように努める。</p>	<p>(1) 既存の樹木は、可能な限り保存若しくは移植し、修景に活かす。</p> <p>(2) 敷地境界には樹木等を活用し、フェンスや塀等による場合は出来るだけ低くして、自然素材を用いる等、周辺景観と調和するように配慮する。特に現状で生垣が形成されている集落沿道内では、やむを得ない場合を除き生垣とする。</p> <p>(3) 使用する樹種は、周辺の樹林や緑地等、又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするように努める。</p>	
	その他	<p>(1) 神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボル等の景観資源に近接する場合は、これらに違和感を与えることのないように位置、形態、意匠、色彩及び材料について配慮する。</p> <p>(2) 駐車場、駐輪場、ゴミ置場、自動販売機、その他の設置物等を配置する場合は、規模、デザインを周囲の景観と調和させるよう配慮すること。</p>	<p>(1) 駐車場、駐輪場、ゴミ置場、自動販売機、その他の設置物等を配置する場合は、規模、デザインを周囲の景観と調和させるよう配慮すること。</p>
<p>工作物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更</p>	<p>垣、柵、塀の類</p> <p>(1) できるだけ低くし、形状、意匠、色彩は、周辺の緑や背景となる山並みへの眺望に配慮した配置や規模、デザインに努めること。</p> <p>(2) 擁壁類は、圧迫感を軽減させるデザインと自然素材の使用などで仕上げを行うとともに、緑化等で修景を行うよう努めること。</p> <p>(3) 露出する場合は、周囲を遮へい効果のある植栽などで囲むなど周囲の景観と調和させるよう配慮すること。</p>	<p>(1) 地域特性を勘案して周囲の景観に配慮する。</p> <p>(2) できるだけ低くし、形状、意匠、色彩は、周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。</p> <p>(3) 擁壁類は、圧迫感を軽減させるデザインと自然素材の使用などで仕上げを行うとともに、緑化等で修景を行うよう努める。</p>	

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
電線類、電柱、鉄塔、アンテナの類	<p>(1) 位置は、山並み景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。なお、設置場所が建築物の規模の項に記載する場所に該当する場合にあっては、原則18m以下とする。</p> <p>(2) 電線・アンテナの類はできる限り共架に努め、電柱・鉄塔類の数をできるだけ少なくする。</p> <p>(3) 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(4) 色彩については、富士山の眺望や背景となる山並み景観等の周辺の景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(5) 鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽などにより遮蔽し、目立たないようにする。</p>	<p>(1) 位置は、山並み景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。</p> <p>(2) 電線・アンテナの類はできる限り共架に努め、電柱・鉄塔類の数をできるだけ少なくする。</p> <p>(3) 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(4) 色彩については、富士山の眺望や背景となる山並み景観等の周辺の景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(5) 鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽などにより遮蔽し、目立たないようにする。</p>	<p>(1) 位置は、山並み景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにするなど、規模をできるだけ小さくする。</p> <p>(2) 電線・アンテナの類はできる限り共架に努め、電柱・鉄塔類の数をできるだけ少なくする。</p> <p>(3) 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。</p> <p>(4) 色彩については、周辺の景観に配慮した色調を用いる。</p> <p>(5) 鉄塔、アンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽などにより遮蔽し、目立たないようにする。</p>
煙突、記念塔、金属柱、高架水槽、彫像の類	<p>(1) 山岳や高原、樹林、農地、集落や家並みなど周辺や背景となる景観を損なわないことを基本とする。</p> <p>(2) 位置は、道路及び隣地から</p>	<p>(1) 山や高原、樹林、農地、集落や家並みなど周辺や背景となる景観を損なわないことを基本とする。</p> <p>(2) 位置は、道路及び隣地から</p>	<p>(1) 山や高原、樹林、農地、集落や家並みなど周辺や背景となる景観を損なわないことを基本とする。</p> <p>(2) 位置は、道路及び隣地からで</p>

¹ アンテナ;PHS用携帯アンテナについては、今後需要の減少に伴って残置が予想されるため、電柱等に設置されたアンテナ設備については、今後段階的に撤去していくことを指導する。

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
遊戯施設、製造プラント、処理施設の類	<p>できるだけ後退させる。</p> <p>(3) 高さは、周囲の景観を損なわないように、規模をできるだけ小さくする。なお、設置場所が建築物の規模の項に記載する場所に該当する場合にはあつては、当該規模の項に定める基準以下とする。</p> <p>(4) 形状、意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。</p> <p>(5) 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。</p> <p>(6) 遊戯施設等工作物の照明、ネオンサインなど屋外照明を行う場合は、建築物に準じるものとする。</p>	<p>できるだけ後退させる。</p> <p>(3) 高さは、周囲の景観を損なわないように、規模をできるだけ小さくする。</p> <p>(4) 形状、意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。</p> <p>(5) 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。</p> <p>(6) 屋外照明を行う場合は、建築物に準じるものとする。</p>	<p>できるだけ後退させる。</p> <p>(3) 高さは、周囲の樹林を超えないように、規模をできるだけ小さくする。</p> <p>(4) 形状、意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。</p> <p>(5) 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。</p> <p>(6) 屋外照明を行う場合は、建築物に準じるものとする。</p>
太陽光発電設備	(1) 富士吉田市太陽光発電施設に関する景観形成基準による。		
開発その他の行為	土地の形質の変更	<p>(1) 土地の形質の変更は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2) 周辺の地形との調和に配慮し、大きな法面などが生じないよう努める。</p> <p>(3) 法面を必要とする場合は、できるだけ緩やかな勾配(1:1.8程度)とし、併せて地域にふさわしい樹木や草花により緑化する。</p> <p>(4) 擁壁等の工作物を設置する際には、擁壁前面への植栽や緑化法面との組み合わせ等、無機質な表情を和らげるよう工夫する。</p> <p>(5) 残地に現存する樹林、樹木、水辺等は極力保全し活用するよう努める。</p> <p>(6) 形質の変更終了後は、速やかに敷地の緑化に努める。</p>	
	鉱物の掘採又は土石の類の採取	<p>(1) 掘採等は必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2) 掘採等にあたっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地の緑化に努める。</p> <p>(3) 掘採等終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。</p>	
	屋外における土石、廃棄物、再生資源、その他物件の堆積	<p>(1) 位置は、道路等その他公共の場からできるだけ離すとともに、規模を必要最小限に抑えるものとする。</p> <p>(2) 積み上げにあたっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然とする。</p> <p>(3) 敷地の周辺は、植栽などの自然と調和した遮蔽措置を講ずるよう努める。</p>	

項目	制度名/対象区域名		
	市街地・田園集落景観形成地域	里地里山・富士山麓景観形成地域	山並み景観形成地域
木竹の伐採	<p>(1) 樹木の保全・育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2) 道路に面する部分の伐採は避け、やむを得ず伐採した場合は代替植栽に努める。</p>		<p>(1) 樹木の保全・育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2) 既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3) 道路に面する部分の伐採は避け、やむを得ず伐採した場合は代替植栽に努める。</p>

2. 景観法(忍野村景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	景観計画区域	産業区域
建築物	形態意匠	(1) 周囲の山並みと樹林地に囲まれた、盆地の背景と調和した街並みの景色を造り出すよう工夫する。 (2) 建築の意匠においては、美しいまちなみや集落景観の創造に寄与すべく、周囲の家屋との適度な調和に配慮する。 (3) 一般住宅の様式は和風を原則とし、屋根の形態は入母屋・切妻・寄棟・方形を主体とする。 (4) 屋外に設ける設備等は、露出しないようにするか、植栽等で目隠しし、できるだけ突出感や乱雑な印象を与えない意匠とする。
	形態意匠 屋根	(1) 周辺と調和する形態・素材を使用する。 (2) 色彩は落ち着いた低明度のこげ茶色等自然素材が持つ色を基調とする。
	形態意匠 外壁	(1) 色彩は、白、黄土色(アイボリー系)又は茶系統等自然素材が持つ色とする。 (2) 材料は、周囲の自然環境と調和する材料を使用するように努める。
	形態意匠 配置・規模	(1) 原則として高さは10m以下とする。 (2) 落ち着いた、ゆとりある街並みとするため、敷地の許す範囲内において、原則として建築部の外壁またはこれに替わる柱の面は道路境界から2m以上後退した位置に配置する。 (3) 物置や車庫などについてもできる限り道路境界線から後退した位置に配置する。
	形態意匠 付帯(屋外施設)	(1) 屋外階段、ベランダなどは建築物本体と調和するよう一体的なデザインとなるよう配慮し、できる限り沿道部に露出しないように配慮する。
	形態意匠 付帯(外構の緑化)	(1) 住宅外構部の修景緑化と母屋と調和する庭木や屋敷林の育成に努める。
		(1) 使用する色数はできるだけ少なくし、周辺と調和した色彩とすること。 (1) 使用する色数はできるだけ少なくし、周辺と調和した色彩とすること。 (1) 原則として高さは25m以下とする。 (2) 世界文化遺産構成資産から眺望できないような配置や規模等とする。 (3) 建築物等による圧迫感を軽減するため、敷地の許す範囲内において、原則として建築部の外壁またはこれに替わる柱の面は道路境界から3m以上後退した位置に配置する。ただし、一般住宅においては、景観計画区域の基準に準ずる。
	(1) 道路沿いは出来る限り植栽を残すよう努める (2) 道路沿いに植栽がない場合は、植栽(常緑樹)をするよう努める。 (3) 一般住宅においては、上記基準によらず、景観計画区域の基準に準ずる。	

項目		制度名/対象区域名	
		景観計画区域	産業区域
工作物等	門・塀・垣・ 柵・擁壁等	<p>(1) 生垣や石材、木材などの天然の材料をできるだけ用い、形状・意匠・色彩は、建築物の基準に準じる。</p> <p>(2) 門形状や垣根、さく、塀の高さは、防犯等に配慮しつつも、忍野らしい良好な近隣関係を維持できるよう閉鎖的な意匠とならないように配慮する。</p> <p>(3) 沿道部に露出する擁壁は圧迫感や不調和感を生じないように、法面化や擁壁前面、上部への植栽、緑化擁壁や表面処理など、デザイン的な処理により景観対策を行う。</p>	
	煙突・ 広告塔等	<p>(1) 田園地帯、富士山などの景観を損なわないことを基本として、建築物に準じたものにする。</p> <p>(2) 位置は、道路及び隣地からできるだけ離し、高さは圧迫感を与えないよう周囲の樹林の高さ以下にするなどできるだけ低く抑え、形状・意匠・色彩・材料は建築物の基準に準じる。</p>	
	自動販売機	<p>(1) 屋外へ設置する場合は、木目調など地味な外装のものを用いるか、目立たないよう周囲を木枠等で囲み、街並みと調和する配置とする。</p> <p>(2) 沿道に設置する場合は、道路境界線から2m以上離して設置し、交差点など目立つ位置への設置は避ける。</p> <p>(3) 目立たない色彩となるよう努める。</p>	
	木竹の伐採	<p>(1) 樹林の保全育成を基本として、周囲の景観を損なわないよう目的に応じて必要最小限の伐採とする。</p> <p>(2) 既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ保存するとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。</p> <p>(3) 道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残す。</p> <p>(4) 伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置(植栽等)の実施に努める。</p>	
	屋外におけるもの 集積又は貯蔵	<p>(1) 残土置き場や資材置き場などは高木植栽等により周囲を囲むなど、景観に配慮する。</p>	

¹ 工作物;景観法(忍野村景観計画)では、次の①～④に示すものとする。①垣根、さく、塀、門、擁壁その他これに類するもの、②煙突、広告塔その他これに類するもの、③街路灯、照明灯その他これらに類するもの、④自動販売機、その付帯施設その他これらに類するもの

3. 景観法(御殿場市景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	市全域	
建築物・工作物の建築等	配置	(1)敷地周辺から富士山や箱根山系への眺望を損なわないよう、建築物等は道路からできる限り後退し、道路側に空地を確保するよう努める。 (2)まとまりある農地、歴史的まちなみや集落、文化財、地域のシンボル等の景観資源に近接する場合は、その保全に配慮した配置および外観とする。
	高さ	(1)山稜の近傍にあつては、稜線(スカイライン)を乱さないよう、尾根からできるだけ低い配置および規模とする。 (2)周辺に山林等樹木が多くある場合は、できる限り周辺の樹木の高さ以内にとどめる。
	形態・意匠	(1)周辺や背景の自然景観やまちなみ景観と調和する形態、意匠とする。 (2)規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図る。 (3)屋根は勾配を有する形態に努める。
	色彩	(1)建築物および工作物の外観の基調色は、落ち着いた色彩または素材色とし、彩度の高い色は避ける。ただし、周囲と調和する場合は明るい色彩を使用してもよい。 (2)アクセント色の使用等に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスを工夫する。
	敷地の緑化	(1)敷地内では、できる限り多くの部分を緑化する。 (2)周辺の建築物等と比べて相当大規模な建築物等にあつては、建築物等のまわりの緑化により圧迫感、威圧感の軽減に努める。
	外構 (垣・柵等)	(1)塀や垣等を設ける場合は、できる限り生け垣または、自然素材を用いた垣柵とする。 (2)これによらない場合は、周辺の景観および建築物等に調和したものとし、できる限り柵・塀の全面的緑化に努める。
	夜間照明	(1)夜間の屋外照明は、過剰な電飾等の光が周囲に散乱しないようにし、周辺の状況に応じた適切な照明方法等を工夫する。
	駐車場等	(1)駐車場や駐輪場は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努める。
建築設備	(1)建築設備は、前面の道路から見えない位置に配置する。ただし、ルーバーの設置等により当該設備が直接露出しないよう修景を行った場合は、この限りでない。	

項目		制度名/対象区域名
		市全域
(メガソーラー) 大規模太陽光発電施設 (風力発電施設)		<p>(1) 太陽光モジュールの色彩は光沢のない黒または濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。</p> <p>(2) 基礎架台の色彩についても、周辺の景観との調和に配慮した色彩とすること。</p> <p>(3) 配慮の工夫や植栽により目隠しをする等、公共的な場所から直接見えないよう配慮すること。</p>
	開発行為	<p>(1) 現況の地形をできる限り活かし、長大な擁壁や法面が生じないようにすること。</p> <p>(2) 擁壁は、素材、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観およびまちなみとの調和に努めること。</p> <p>(3) 法面は、緑化等により周辺の景観およびまちなみとの調和に努めること。</p> <p>(4) 良好な既存の樹木は出来る限り保全および活用に努めること。</p>
	特定照明	<p>(1) 地域の夜間景観を損なう、過度の明るさや色彩の照明を用いないこと。</p> <p>(2) 特定の対象物を照射するものとし、光源を空、道路、鉄道等公共空間に向けての照射を避けるとともに、光源等にカバーやルーバーを設置する等により、周辺や上空へ光が漏れるのを防止すること。</p>

4. 景観法(裾野市景観計画)に定める景観形成基準

項目	制度名/対象区域名	
	市全域	
建築物の新築など	配置	(1) 富士山などの眺望を阻害しないような配置とすること。 (2) 周辺の地形やまち並みなど周辺景観から突出した印象とならないような配置とすること。
	高さ	(1) 富士山などの眺望景観や自然景観、周辺のまち並み景観を阻害しない高さとする。
	形態	(1) 建築物の形態や屋根形状は、後背の自然景観との調和に配慮するとともに、まち並み景観の統一感や連続性を高めるものとする。
	壁面	(1) 建築物の壁面は、威圧感をできる限りなくすこと。
	色彩	(1) 建築物の壁面、屋根及び工作物の色彩は、周辺景観や後背の自然景観との調和に努め、彩度は抑えること。 (2) 色数は全体で5色以内となるように努め、木・土・コンクリート・ガラスなどは、その配色が著しく目立った印象とならないようにすること。
	材料	(1) 材料は、外観の変化をすぐに起さないもの、または年月とともに落ち着いた雰囲気の出る材料の使用に努めること。
	付帯設備	(1) 屋上に設ける設備(給排水管、ダクト、受水槽、冷却塔、アンテナなど)は、外部から見えない場所に設置する、または目隠しなどにより見えないようにすること。 (2) 太陽光発電設備は、目立たない場所への配置や周囲を植栽で目隠ししたりするなど、周辺から見え難くなるように努めること。 (3) 太陽光発電設備の太陽電池モジュール(パネル)は、反射が少なく模様が目立たないものの採用を図るとともに、設置場所との色彩の調和を図ること。
	門柱・門扉 垣・柵	(1) 道路等に面する柵などの施設は、建物本体や周辺のまち並みと調和するよう形態や色彩を工夫し、圧迫感のないものとする。
植栽	(1) 敷地内の既存樹木は、極力保全し、修景に活かすよう配慮すること。 (2) 敷地内や建築物等の緑化や花による修景に努めること。	

項目		制度名/対象区域名																										
		市全域																										
建築物	色彩	<p>・建築物の壁面など外壁の基調色は、日本工業規格Z8721〔色の表示方法－三属性による表示〕において、以下のとおりとすること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>色相</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 0R(≠10RP)～10R</td> <td>4.0 以下</td> <td rowspan="4">3.0 以上</td> </tr> <tr> <td>② 0YR(≠10R)～5Y</td> <td>6.0 以下</td> </tr> <tr> <td>③ ①②以外</td> <td>2.0 以下</td> </tr> <tr> <td>④ N(無彩色)</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ただし、次の場合に関しては適用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面に着色していない、または製造過程において着色していない木材、土壁、ガラス等の素材本来が持つ色彩及び見付面積の10分の1未満の範囲の色彩。 ・設置後の太陽光発電設備の太陽電池モジュール(パネル)の合計面積が1,000㎡以上となる行為のみが届出対象となる建築物の色彩。 ・当該建築物が敷地外から視認できない場合など、視認性の点から市長が特に景観上支障を及ぼさないと認める色彩。 			色相	彩度	明度	① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上	② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下	③ ①②以外	2.0 以下	④ N(無彩色)	—												
		色相	彩度	明度																								
① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上																										
② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下																											
③ ①②以外	2.0 以下																											
④ N(無彩色)	—																											
工作物	色彩	<p>・工作物の壁面など外観の基調色は、日本工業規格 Z8721〔色の表示方法－三属性による表示〕において、以下のとおりとすること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>色相</th> <th>彩度</th> <th>明度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> 工作物(1) ・工作物(2)及び工作物(3)を除く全ての工作物 </td> <td>① 0R(≠10RP)～10R</td> <td>4.0 以下</td> <td rowspan="4">3.0 以上</td> </tr> <tr> <td>② 0YR(≠10R)～5Y</td> <td>6.0 以下</td> </tr> <tr> <td>③ ①②以外</td> <td>2.0 以下</td> </tr> <tr> <td>④ N(無彩色)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> 工作物(2) ・煙突、排気塔その他これらに類する物件、電波塔、送電用鉄塔、風力発電設備その他これらに類する物件 </td> <td>① 0R(≠10RP)～5Y</td> <td>2.0 以下</td> <td rowspan="2">3.0 ~ 7.0</td> </tr> <tr> <td>② N(無彩色)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工作物(3) ・土地に自立して設置する太陽光発電設備 </td> <td colspan="3"> ・太陽電池モジュール(パネル)の色彩は黒又は濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>・ただし、次の場合に関しては適用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面に着色していない、または製造過程において着色していない木材、土壁、ガラス等の素材本来が持つ色彩。 ・当該工作物が敷地外から視認できない場合など、視認性の点から市長が特に景観上支障を及ぼさないと認める色彩 			区分	色相	彩度	明度	工作物(1) ・工作物(2)及び工作物(3)を除く全ての工作物	① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上	② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下	③ ①②以外	2.0 以下	④ N(無彩色)	—	工作物(2) ・煙突、排気塔その他これらに類する物件、電波塔、送電用鉄塔、風力発電設備その他これらに類する物件	① 0R(≠10RP)～5Y	2.0 以下	3.0 ~ 7.0	② N(無彩色)		工作物(3) ・土地に自立して設置する太陽光発電設備	・太陽電池モジュール(パネル)の色彩は黒又は濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。		
		区分	色相	彩度	明度																							
工作物(1) ・工作物(2)及び工作物(3)を除く全ての工作物	① 0R(≠10RP)～10R	4.0 以下	3.0 以上																									
	② 0YR(≠10R)～5Y	6.0 以下																										
	③ ①②以外	2.0 以下																										
	④ N(無彩色)	—																										
工作物(2) ・煙突、排気塔その他これらに類する物件、電波塔、送電用鉄塔、風力発電設備その他これらに類する物件	① 0R(≠10RP)～5Y	2.0 以下	3.0 ~ 7.0																									
	② N(無彩色)																											
工作物(3) ・土地に自立して設置する太陽光発電設備	・太陽電池モジュール(パネル)の色彩は黒又は濃紺もしくは低彩度・低明度の目立たないものとする。																											

5. 景観法(小山町景観計画)に定める景観形成基準

項目		制度名/対象区域名																					
		町全域																					
建築物の新築など	配置	(1)敷地の前面道路の反対側からの富士山・金時山等への眺望の見通しを阻害しないように見通し線を確認し、これを避ける配置とする。 (2)周辺の地形やまち並み等の景観の基調を確認し、目立った印象とならないような配置とする。 (3)道路等公共施設に面する壁面等は後退し、修景空間や公開空地的な空間、隠蔽植栽のための空間を確保する。																					
	形態	(1)形態は、周辺の地形やまち並み等と調和し、目立った印象とならないようにする。 (2)屋根は、周辺の地形やまち並み等景観の基調を確認し、これと調和する形状とする。																					
	壁面デザイン	(1)周辺景観の基調((水平・垂直基調、陰影、スケール等)を確認し、これと調和する壁面デザインとする。 (2)単調な大壁面とならないようにする。 (3)壁面や屋上の緑化に努める。 (4)石材、木材等の小山町の個性を感じさせる自然素材を活用する。																					
	色彩	(1)建築物の外観の基調色は、周辺のまち並みや建築物等と調和した色彩とする。 (2)日本工業規格Z7821[色の表示方法－三属性による表示]において、以下のとおりとすること。																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">色相</th> <th colspan="2">彩度</th> <th rowspan="2">明度</th> </tr> <tr> <th>市街化区域</th> <th>市街化区域外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0R(10RP)～10R</td> <td>4以下</td> <td>3以下</td> <td rowspan="4">外壁2以上</td> </tr> <tr> <td>0YR(10R)～5Y</td> <td>6以下</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>その他(5Y～10RP)</td> <td>3以下</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>N(無彩色)</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table>			色相	彩度		明度	市街化区域	市街化区域外	0R(10RP)～10R	4以下	3以下	外壁2以上	0YR(10R)～5Y	6以下	4以下	その他(5Y～10RP)	3以下	2以下	N(無彩色)	—	
色相	彩度		明度																				
	市街化区域	市街化区域外																					
0R(10RP)～10R	4以下	3以下	外壁2以上																				
0YR(10R)～5Y	6以下	4以下																					
その他(5Y～10RP)	3以下	2以下																					
N(無彩色)	—																						
		ただし、次の場合はこの限りではない。 ・木材や石材等の自然素材、レンガ、土壁、ガラス、銅等の金属材、コンクリート等の表面に着色していない素材により仕上げられている場合。 ・各壁面の見付面積の10分の1未満の範囲で、アクセントカラーとして低層部に効果的に使用される場合。 ・太陽電池モジュールで、黒、濃紺、低彩度の色彩のもの(彩度2.0以下のもの)を使用する場合。 ・鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、橋梁、防護柵等で、ダークブラウン(10YR2/1程度)を使用する場合。 ・法令や条例等において基準が定められている場合。 色数は、アクセントカラーも含めて4色以内とし、それぞれの色の対比が強くないよう配慮する。																					

項目		制度名/対象区域名
		町全域
建築物の新築など	附帯設備	<p>(1) 屋外階段は、建物本体と一体的、あるいは調和したデザインとする。</p> <p>(2) 屋上に設ける設備は、外部から見えにくくなるよう配置する、あるいは壁面の立ち上げやルーバー等により隠すようにする。</p> <p>(3) 外壁の設備配管や設備機器は、外部から見えにくくなるよう配置する、あるいは建物本体と一体的、もしくは調和したデザインとする。</p>
	面した道路に空地	(1) 前面道路等に面した壁面後退部分の空地は、歩道や広場として解放する、あるいは緑化等により修景する。
	外壁・扉・門柱・門扉	<p>(1) 建物本体や周辺のまち並みと調和し、圧迫感のないものとする。</p> <p>(2) 透過性のあるものとする。</p>
	植栽	<p>(1) 敷地内の既存樹木は極力保全し、修景に活かす。</p> <p>(2) 敷地内のオープンスペースの緑化に努める。</p> <p>(3) 周辺植生に調和する樹種を選択する。</p> <p>(4) 敷地入り口周辺、建物までのアプローチ通路沿い等は、花壇やプランター等により演出する。</p>
	駐車場等	(1) 駐車場や駐輪場は、潤いある空間となるように、緑化や舗装デザインに配慮するとともに、必要に応じて道路等から見えにくくなるようにする。
	付属施設	<p>(1) 立体駐車場は、建物本体と一体的、あるいは調和したデザインとする。</p> <p>(2) 電気室、機械室、トイレ、ゴミ置場等は、目立たない位置に配置するとともに、建物本体や周辺景観と調和するデザインとする。</p> <p>(3) 付属施設の周囲に、目隠しや防音のための植栽等を施す。</p>
	建築物に附帯する広告物及び同敷地内の広告物	<p>(1) 広告物は、自家広告のみとする。</p> <p>(2) 屋上看板、突出看板は建築物等と一体化を図り、看板部分の面積は最小限に留める。</p> <p>(3) 広告塔等の独立看板を設置する場合は、集約化、小面積化、デザインの高質化、建物本体との調和等、周辺の景観を損なわないようにする。</p> <p>(4) 看板の地色には、高彩度色や蛍光色の使用をできるだけ避ける。</p>
工作物の新築など	立地・配置	<p>(1) 町内の主要な眺望点からの富士山・金時山等への眺望の見通しを阻害しないように見通し線を確認し、これを避ける立地とする。</p> <p>(2) 敷地の前面道路の反対側からの富士山・金時山等への眺望の見通しを阻害しないように見通し線を確認し、これを避ける配置とする。</p> <p>(3) 道路等公共施設に面する壁面等は後退し、修景空間や公開空地的な空間、隠蔽植栽のための空間を確保する。</p>

項目	制度名/対象区域名																					
	町全域																					
工作物の新築など	形態	(1) 形態は、周辺の地形やまち並み等と調和し、目立った印象とならないようにする。																				
	色彩	(1) 工作物の外観の基調色は、周辺のまち並みや建築物等と調和した色彩とする。 (2) 日本工業規格Z7821〔色の表示方法－三属性による表示〕において、以下のとおりとすること。																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">色相</th> <th colspan="2">彩度</th> <th rowspan="2">明度</th> </tr> <tr> <th>市街化区域</th> <th>市街化区域外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0R(10RP)～10R</td> <td>4以下</td> <td>3以下</td> <td rowspan="4">外壁2以上 ・ 屋根5以下</td> </tr> <tr> <td>0YR(10R)～5Y</td> <td>6以下</td> <td>4以下</td> </tr> <tr> <td>その他(5Y～10RP)</td> <td>3以下</td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>N(無彩色)</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table>		色相	彩度		明度	市街化区域	市街化区域外	0R(10RP)～10R	4以下	3以下	外壁2以上 ・ 屋根5以下	0YR(10R)～5Y	6以下	4以下	その他(5Y～10RP)	3以下	2以下	N(無彩色)	—	
		色相	彩度		明度																	
			市街化区域	市街化区域外																		
0R(10RP)～10R	4以下	3以下	外壁2以上 ・ 屋根5以下																			
0YR(10R)～5Y	6以下	4以下																				
その他(5Y～10RP)	3以下	2以下																				
N(無彩色)	—																					
ただし、次の場合はこの限りではない。 ・木材や石材等の自然素材、レンガ、土壁、ガラス、銅等の金属材、コンクリート等の表面に着色していない素材により仕上げられている場合。 ・各壁面の見付面積の10分の1未満の範囲で、アクセントカラーとして低層部に効果的に使用される場合。 ・太陽電池モジュールで、黒、濃紺、低彩度の色彩のもの(彩度2.0以下のもの)を使用する場合。 ・鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、橋梁、防護柵等で、ダークブラウン(10YR2/1程度)を使用する場合。 ・法令や条例等において基準が定められている場合。 色数は、アクセントカラーも含めて4色以内とし、それぞれの色の対比が強くないよう配慮する。																						
面した道路に空地	(1) 前面道路等に面した後退部分の空地は、圧迫感を軽減するために植栽により修景する。																					
植栽	(1) 敷地内の既存樹木は極力保全し、修景に活かす。 (2) 敷地内のオープンスペースの緑化に努める。 (3) 周辺植生に調和する樹種を選択する。																					
工作物に附帯する広告物	(1) 広告物は、自家広告のみとする。 (2) 看板部分の面積は最小限に留める。 (3) 看板の地色には、高彩度色や蛍光色の使用をできるだけ避ける。																					
太陽光発電設備	(1) 太陽電池モジュールは、黒色又は濃紺色若しくは周辺の景観と調和する低明度かつ低彩度のものを使用し、低反射で、できるだけ模様が目立たないものを使用する。 (2) フレームは、周囲の緑地景観と調和した色彩とする(黒・茶系の色彩とする)。																					

6. 土地利用事業指導要綱(御殿場市)に定める基準

項目	制度名/対象区域名
	御殿場市全域
環境・景観一般	<p>(1) 廃棄物の処理については、再生利用の徹底等により、ごみの発生を極力抑制し、資源循環型社会の構築に努めること。</p> <p>(2) 建築物その他構築物の位置、規模、構造、高さ及び色彩は、周囲の自然環境に調和したものであり、かつ、富士山の眺望に配慮されていること。また、植栽についても同様とすること。</p> <p>(3) 自然環境の保全のため、自然破壊の防止、植生の回復等に配慮した計画であること。この場合において、施行区域内に良好な自然環境の存する土地がある場合には、当該土地について保全措置が講じられていること。</p> <p>(4) 都市計画法第5条第1項に規定する都市計画区域の区域外又は同法第7条第3項に規定する市街化調整区域内の建築物の高さは、地盤面から15メートル以下とし、屋根は傾斜屋根であること。ただし、近隣の状況や建築物の配置、形状、規模、色彩、用途等を考慮して、風致景観に支障がないと判断される場合は、この限りでない。</p>
施設関係(環境・景観等と関連があるもの)	<p>(1) 施設整備については、あらゆる年齢・性別・障害・体格の度合いに応じ、だれもが利用しやすい施設整備を図るため、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、環境整備に積極的に努めること。</p> <p>(2) 施行区域の外縁部には、施行区域面積に対し、原則として緑地が確保され、高木樹種が植栽されるとともに、緑地の区域を明確にするため、区域界には縁石又は境界杭を打設すること。ただし、住宅地(常時使用する独立住宅用のもの)の分譲事業、温泉、地下水、土石採取等の土地利用事業については、別途協議すること。</p> <p>(3) 施行区域周辺の状況により必要と認められる場合は、隣地との境界部に緩衝緑地帯等が設置されること。</p> <p>(4) 事業に伴い必要となる自動車駐車場が、区域内に有効に設置されているとともに、必要と認められる場合は、二輪車駐車場も設置されていること。ただし、施行区域が商業地域、近隣商業地域で、近隣に自動車駐車場が有効に配置されていると認められる場合は、この限りでない。</p> <p>(5) 市街化調整区域の土地利用事業において、建築物等を設計する場合は、都市計画法の規定により宅地の区域として認められた範囲内に、この要綱に定める基準による駐車場、緑地等を設けること。ただし、既存の敷地区域外に駐車場、緑地等を設けることが合理的と判断され、かつ建築確認申請担当課との協議を経た場合は、この限りでない。また、市街化区域の土地利用事業についても、原則として施行区域内にこの要綱に規定する基準による駐車場、緑地等を設けること。</p>
道路等関係	<p>(1) 工事による土砂の運搬、流出等により、道路等公共施設や周辺地域を汚さないよう措置が講じられていること。</p> <p>(2) 施行区域内に新設する道路及び交通安全施設(道路附属施設)については、道路管理者等と協議すること。</p> <p>(3) 道路等の法面は、地質等を考慮した安全な構造とし、周囲の景観と調和していること。</p>

7. 土地利用事業指導要綱(裾野市)に定める基準

項目	制度名/対象区域名
	裾野市全域
森林	<p>(1) 保安林及び保安施設地区への土地利用事業は、原則として認めないものとする。</p> <p>(2) 林道整備等の林業公共投資の受益地については、原則として土地利用事業の施行は認めない。</p> <p>(3) 施行区域の森林を転用した場合の残置森林については、適切な森林施業を行うこと。</p>
産業廃棄物処理施設の凍結	<p>(1) 産業廃棄物処理施設の土地利用事業については、原則として当分の間認めないものとする。ただし、次に掲げる施設に於いて設置区域及びその周辺地域における生活環境並びに自然環境を保全し、災害及び公害を防止するための万全な計画が確立されているものについてはこの限りではない。</p> <p>1) 建設業に係る再生資源の利用の促進に関する法律(リサイクル法)に基づく建設工事に伴う副産物の中のコンクリート塊やアスファルト塊の再資源化の中間処理施設であるもの。</p> <p>2) 産業廃棄物排出事業者処理計画を策定する本市内の製造事業者が行う自己の工場内の製造工程中に発生する産業廃棄物をその工場内で自己処理する施設であること。ただし、遮断型施設を除く。なお、静岡県産業廃棄物最終処理の立地に関する基準及び静岡県産業廃棄物最終処分場の構造等に関する基準に適合する施設であること。</p>

8. 土地利用事業指導要綱(小山町)に定める基準

項目	制度名/対象区域名
	小山町全域
森林	<p>(1) 保安林及び保安施設地区への土地利用事業は、原則として認めないものとする。</p> <p>(2) 林道整備等の林業公共投資の受益地については、原則として土地利用事業の施行は認めない。</p> <p>(3) 施行区域内の森林を転用する場合における施行区域内の森林面積に対する残置し、若しくは造成する森林又は緑地の面積の割合は、分譲地20%以上、マンション(市街化区域内のものを除く)等50%以上、分譲別荘等60%以上、工場、研究・研修施設等25%以上、スポーツ・レクリエーション施設、保養所等の複合的施設50%以上、墓園等50%以上とする。</p> <p>(4) 保安林の境界から原則として20メートル以内の区域は、造成区域から除外すること。</p>
防災施設	<p>(1) 造成工事によって生ずる流出土砂の防止施設は、砂防堰堤を設置するものとするが、地形、地質等により砂防堰堤を設置できない場合は、沈砂池等を設置するものとする。</p> <p>(2) 事業は、防災工事を優先すること。</p> <p>(3) 工事中は、仮設調整池、沈砂池等を設置し、雨水及び土砂の区域外流出防止措置をとること。</p>
文化財	<p>(1) 事業計画の策定にあたり、施行区域内における文化財の有無を町教育委員会で確認し、文化財が所在する場合は、町教育委員会と協議し指示を受け対処すること。</p>